

井原市教育委員会事務
点検・評価報告書

(平成27年度対象)

平成28年12月

井原市教育委員会

井原市教育委員会委員名簿

(平成28年3月31日現在)

委員長 藤井秀彦

委員長職務代理者 鈴木千恵

委員 奥田隆夫

委員 佐藤和代

委員(教育長) 片山正樹

目 次

I	教育委員会の事務の点検・評価制度の概要	
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
2	井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について	1
	(1) 点検・評価の目的	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
	(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催状況	3
2	その他の主な活動	6
III	重点施策	
重点施策 I	生きる力を育む学校づくり（学校教育の充実）	8
重点施策 II	生涯学習社会に対応する学習機会の提供	11
重点施策 III	生涯学習環境の整備と充実	13
重点施策 IV	市民と行政の協働による生涯学習の推進	15
重点施策 V	豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）	16
重点施策 VI	地域文化を体感できる活力あるまちづくり （芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）	18
重点施策 VII	生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり （時代に対応した教育施設・機能の整備・充実）	20
IV	平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表	
重点施策 I	生きる力を育む学校づくり（学校教育の充実）	22
重点施策 II	生涯学習社会に対応する学習機会の提供	26
重点施策 III	生涯学習環境の整備と充実	27
重点施策 IV	市民と行政の協働による生涯学習の推進	31
重点施策 V	豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）	33
重点施策 VI	地域文化を体感できる活力あるまちづくり （芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）	36
重点施策 VII	生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり （時代に対応した教育施設・機能の整備・充実）	39

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられた。

併せて、点検及び評価を行うにあたり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされた。

この報告書は、同法の規定に基づき、井原市教育委員会が行った点検・評価の結果について報告するものである。

2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について

(1) 点検・評価の目的

点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としている。

(2) 点検・評価の対象

ア 対象期間

平成27年度を対象期間とする。

イ 対象事務

地教行法に規定する教育委員会の権限に属する事務を対象事務とする。

(3) 点検・評価の方法

「平成27年度教育行政重点施策」の施策・内容・実施事業について達成度により評価した。

・達成度（A～E）

A・・・成果を上げ、目的を達成している。

B・・・目的をほぼ達成している。

C・・・目的は達成していないが、前年度より改善され一定の成果をあげている。

D・・・目的は達成しておらず前年度より悪化しており、十分な成果があがっていない。

E・・・実績が未把握。

(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図

るため「井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会」において、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果に対し、第三者評価委員会委員として委嘱した学識経験者5名から所見・助言を得た。

第三者評価委員会委員の選任にあたっては、本市の「教育現場」への理解度の深さを前提に、教育行政現場における実務経験及び各分野における専門性等を考慮し委嘱した。

○井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員

氏 名	役 職 等
山 本 嵩 之	元県立井原高等学校長
河 合 裕 子	井原市社会教育委員
山 木 誠 一	井原市体育協会 副会長
原 田 繁	井原市文化協会 副会長
三 宅 興太郎	元井原市教育長

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況

井原市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催している。

この会議において、5名の教育委員（教育長1名を含む。）が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃、教科書の採択など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

このほか、学力向上や不登校防止に係る諸問題、教育委員会会議概要の公開などを協議案件として、事務局との質疑応答や意見交換、教育委員間での協議を行った。

平成27年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	附 議 案 件 等
平成27年 4月定例会 (27.4.27)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市教育委員会職員の人事異動について ・芳井公民館分館長の任命について ・県主公民館運営審議会委員の委嘱について ・木之子公民館運営審議会委員の委嘱について ・青野公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市教育委員会機構改革に伴う関係規則の整備に関する規則について ・井原市教育委員会機構改革に伴う関係規程の整備に関する規程について ・井原市社会教育委員の委嘱について ・井原市立図書館協議会委員の任命について
5月定例会 (27.5.28)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・高屋公民館運営審議会委員の委嘱について ・大江公民館運営審議会委員の委嘱について ・稲倉公民館運営審議会委員の委嘱について ・荏原公民館運営審議会委員の委嘱について ・西江原公民館運営審議会委員の委嘱について ・野上公民館運営審議会委員の委嘱について ・出部公民館運営審議会委員の委嘱について ・芳井公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市立学校評議員の委嘱について ・井原市社会教育委員の委嘱について

		<ul style="list-style-type: none"> ・井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市美星天文台運営委員会委員の委嘱について
6月定例会 (27.6.25)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市特別支援教育就学指導委員会委員の委嘱について ・井原市幼稚園教諭採用試験委員会委員の委嘱について ・井原市奨学資金借受者の決定について
7月定例会 (27.7.27)	美星天文台 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度岡山県学力・学習状況調査の結果について ・平成28年度使用井原市立高等学校教科用図書の採択について ・平成28年度使用中学校教科用図書の採択について
7月臨時会 (27.7.29)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度使用井原市立中学校教科用図書の採択について ・井原市いじめ問題対策連絡協議会設置規則について
8月定例会 (27.8.24)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度岡山県学力・学習状況調査の結果の公表について
(持ち回り) (27.9.8)		<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について
9月定例会 (27.9.30)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市立田中美術館美術品取扱要綱の一部を改正する要綱について ・井原市教育委員会委員長の選任について ・井原市教育委員会委員長職務代理者の選任について
10月定例会 (27.10.28)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市立学校職員服務規程の一部を改正する規程について ・井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員の委嘱について ・平成26年度教育委員会事務事業評価について
12月定例会 (27.12.18)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度井原市一般会計補正予算(第3号)について ・井原市立学校管理規則の一部を改正する規則について ・平成28年度全国学力・学習状況調査への参加について ・平成27年度末井原市教職員人事異動方針について
平成28年 2月定例会 (27.2.18)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会委員の辞職につき同意を求めることについて ・岡山県教育委員会の権限に属する事務の移譲について ・平成27年度 卒業式について ・平成28年度教育行政重点施策(案)について

<p>3月定例会 (28.3.23)</p>	<p>市役所 403 会議室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会教育長の任命について ・教育委員会委員の任命について ・平成28年度井原市一般会計予算（教育費関係）について ・井原市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について ・平成28年度教育行政重点施策について ・井原市教育ネットワーク管理運用規程について ・井原市教育委員会事務関係職員勤務評定規程の廃止について ・井原市青少年研修センター条例施行規則の一部を改正する規則について ・井原市芳井生涯学習センター条例施行規則の一部を改正する規則について ・井原市公民館長の任命について ・井原市スポーツ推進委員の委嘱について ・井原市市費負担教員の任用等に関する規則の一部を改正する規則について ・平成27年度末井原市教職員人事異動の内申について ・教育長職務代理者の指名について ・平成28年度 入学式について
<p>(持ち回り) (28.3.29)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・芳井公民館三原分館分館長の任命について

2 その他の主な活動

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議・関係行事へ出席している。
平成27年度におけるその主な活動は次のとおりである。

月 日	会議・研修会等	場 所
平成27年 4月 7日 ～ 9日	入学（園）式	市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 13園
4月24日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	笠岡市民会館
5月11日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会	岡山県総合教育センター
5月13日	浅口市・総社市・高梁市 新任管理職表敬訪問	浅口市六条院小学校 県立西備支援学校 総社市維新小学校 高梁市福地小学校
5月19日	高梁川流域連盟総会	倉敷国際ホテル
5月20日 ～22日	第67回全国都市教育長協議会定期総会・研究大会	神奈川県厚木市
7月 3日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	ライフパーク倉敷
7月22日	7月期教育長連絡会議	ピュアリティまきび
7月23日	中国地区市町村教育委員会連合会研究大会	倉敷アイビースクエア
7月23日	中学校教科書地区協議会	井原市役所
7月15日	中学校教科書採択地区協議会	矢掛町文化センター
7月22日	岡山教育事務所管内教育長連絡会議	ピュアリティまきび
7月31日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	ピュアリティまきび
8月19日	井原市教育講演会	芳井生涯学習センター
10月 4日	第53回井原市民体育祭	井原運動公園陸上競技場
10月 8日	県教育長と市町村教育長との意見交換会	岡山県立図書館
10月 8日	第37回全国公民館研究集会 in 鳥取	とりぎん文化会館 外
10月21日	10月期教育長連絡会議	岡山教育事務所
10月22日	中国地区都市教育長会定期総会・研究協議会	せとうち児島ホテル
11月12日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	くらしき健康福祉プラザ
11月16日 ～17日	井原市教育委員県外視察	栃木県大田原市

1月20日	教育委員会事務事業第三者評価委員会	井原市役所
平成28年 1月20日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 第3回定例会	総社市総合福祉センター
1月22日	岡山県市長会県下各市教育長との意見交換会	ピュアリティまきび
1月30日 ～31日	第36回まなびフェスタ in いばら	アクティブライフ井原
2月2日 ～3日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 教育行政視察	山口県防府市
3月5日	G7倉敷教育大臣会合開催記念教育講演会	倉敷アイビースクエア
3月1日 ～18日	卒業（園）証書授与式	県立高校 2校 私立高校 1校 市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 13園

重点施策Ⅰ 生きる力を育む学校づくり
(学校教育の充実)

学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携のもとに、次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」などの「生きる力」を育む学校づくりを推進する。また、「学力向上」と「いじめ・不登校等の問題の解決に向けた取組」の充実を図る。

確かな学力の育成については、小学校において35人以下学級を継続させ、言語活動の充実、きめ細かな指導、教職員研修の充実を図るとともに、全小学校区において地域土曜学習サポート事業を推進する。また、幼稚園教育の充実のため3歳児教育の拡大を図る。

豊かな心の育成については、人権尊重の精神を根底とし、道徳教育や読書活動、特別活動等の中で、体験活動などを通して、子どもの規範意識や郷土愛を育む教育を進める。また、いじめ・不登校等の問題の解決に向けて、専門家や関係機関との連携を強化し、相談体制の充実を目指す。

健やかな体の育成については、体育の授業の充実とともに、健康・安全教育や食育の推進を図り、心身共に健康な幼児・児童・生徒の育成を図る。

施 策	内 容
1. 確かな学力の育成 (1) 幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実 ・ 幼稚園教職員研修の充実 (生活リズム向上に関する研修) ・ 幼稚園における3歳児教育の拡大
(2) 確かな学力と個の可能性を伸ばす教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後学習サポート事業 (13小学校) ・ 地域土曜学習サポート事業 (13小学校区) ・ 全国標準学力検査の実施 ・ 学力向上対策事業 ・ いばらっ子イノベーション35推進事業 (市費講師配置による35人以下学級編制) ・ いばらっ子伸びる学力支援事業 (非常勤講師8人配置、(小1支援員配置)) ・ 英語授業の充実 (ALT6人の活用) ・ デジタル教科書の活用推進 ・ 片山科学賞基金運営事業
(3) 高校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力の充実 ・ キャリア教育の充実 ・ 各種検定・資格の取得推進

<p>(4) 特別支援教育の推進</p> <p>(5) 教師力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員の配置と活用（25人） ・巡回相談員の配置と活用（1人） ・若手・中堅教員研修の充実 ・研究指定校による研究発表会（木之子幼、青野小） ・井原市学校教育研究会研修事業の実施 ・教育講演会の開催 ・定期及び要請による学校訪問 ・ICT支援員の配置と活用（2人） ・㊦教師業務アシスタントの配置（1人）
<p>2. 豊かな心の育成</p> <p>(1) 心の教育の推進</p> <p>(2) 生徒指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関する指導の充実 ・ふるさと井原魅力発見事業 （小6田中美術館見学等、小4宿泊体験） ・スポーツふれあい交流事業「夢の教室」（小5） ・地域教材を活用した道徳教育の推進 ・学校司書の配置と読書活動の推進 ・人権教育担当者研修会の開催 ・㊦キャリア教育実践モデル開発事業（美星小中） ・㊦長期宿泊体験（荏原小） ・明るい学校づくり支援事業(Q-U検査) ・㊦ネットとスマホの利用改善の推進 ・不登校児童生徒の適応指導対策事業 （スクールカウンセラー配置事業） （スクールサポーター配置事業（中学校）） （訪問カウンセリング事業） （問題行動対策コーディネーター配置事業） （登校支援員配置事業） （不登校対策実践研究事業） ・㊦いじめ問題対策連絡協議会の設置
<p>3. 健やかな体の育成</p> <p>(1) 基礎体力・運動能力の向上</p> <p>(2) 保健・安全教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・㊦体力づくり推進事業 ・幼稚園児体力テストの実施 ・健康づくり優良児童生徒表彰 ・いばらっ子生活リズム向上プロジェクト ・防災教育の推進

<p>(3) 食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育の充実 ・防犯意識の高揚と啓発活動 ・小児生活習慣病予防健診の実施（小4、中1） ・薬物乱用防止教育等の推進 ・㊤岡山県学校保健研究大会の開催 ・笑顔の食育参観日(朝食パワーアップ事業)の実施(全幼) ・栄養教諭による食育の推進 ・学校給食における地産地消の推進 ・学校給食における食物アレルギーへの対応 ・食育担当者研修会の開催 ・食育講座の開催
<p>4. 学校・家庭・地域社会の連携</p> <p>(1) 家庭や地域の教育力の向上</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの活用 ・学校支援地域本部事業の推進 ・教育広報紙（ともなび）の発刊 ・開かれた学校づくり推進事業の実施 ・学校評価・学校評議員制度の積極的活用 ・学校ホームページの充実

重点施策Ⅱ 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

子どもたちが、心身ともに健やかに成長していくよう、家庭教育に関する学習機会を拡充するとともに、市民が、生きがいのある充実した人生を送れるように、生涯学習の支援、社会教育活動の拡充に努める。

また、人権の問題や高度情報化等にとまなう現代的課題に適切に対応していくため、市民が気軽に参加できる講座や学習機会を設け、積極的な情報提供に努める。

さらに、市民のニーズに沿った学習環境を整備するとともに、学習成果の発表の場でもある生涯学習の集い等の開催を通して、一層の普及啓発に努め、学びの意識を高めていく。

施 策	内 容
1. 家庭教育機能の向上	①子育て支援体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課、健康医療課、図書館等との連携・協力 ・井原子育てネットワーク協議会との連携 ②子育てに関する学習機会の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた課題別子育て講座の開催 ・子育て支援講演会の開催 ・子育てイベントの実施 ・子育てサポーターの養成及び活動支援（派遣託児）の実施 ・家庭教育学級（中央・各地区）、幼児教育学級、婦人学級等の支援
2. 社会教育における学習機会の提供	①子どもの学習生活環境の整備充実 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書活動推進事業の実施 絵本づくり講座の実施 読み聞かせボランティアの養成 年齢別絵本ガイドの作成 ・学びのポイントラリーの推進 ・子ども情報紙「でんしょばと」の発行 ・笑って健康元気アップ事業の実施 生活リズム向上・食育事業と併せ、のびのび合宿の実施 ・いばらっ子生活リズム向上プロジェクト事業の実施 ・ブックスタート事業の実施 ・セカンドブック事業の実施

	<p>②青少年の健全育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連合少年団 少年団体等指導者養成講座・ジュニアリーダー養成講座の開催 ・ 連合少年団 少年レクリエーション大会の開催 ・ 少年団活動指導者ブックの活用 ・ 友好親善都市児童交流事業（魚津市・大田原市）の実施 ・ 新成人の主体的な取り組みによる成人式の実施 ・ 地区青少年を育てる会等の活動支援 ・ 青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進 ・ 子ども・若者育成支援事業として、若者の「学び」と「集い」の場「夢源塾」を実施 <p>③成人期の生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人大学講座の開設 <p>④高齢期の生涯学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者学級の開催(寿大学院、芳寿大学、長寿学級・むつみ会)
<p>3. 多様な学習課題への対応と学習機会の充実</p>	<p>①情報化に対応した情報教育の基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン講座の開催 <p>②人権が尊重されるまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くらしと人権講座の開設 ・ 諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進(P T A、地区、企業等) ・ 市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進 ・ 井原市ふれあいセンターでの交流活動等の推進
<p>4. 芸術・文化活動の振興</p>	<p>①交流を生み出す芸術・文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化講演会、コンサートの開催 ・ 優秀映画鑑賞会・子ども映画会の実施
<p>5. 学習ニーズの把握</p>	<p>①学習ニーズや意識の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種事業等開催時のアンケート調査の実施
<p>6. 総合的な啓発事業の開催</p>	<p>①学習意欲を高揚するイベント等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習の集い、文化祭等の開催
<p>7. 意識を高める啓発活動の推進</p>	<p>①C A T Vや広報誌等による啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習に関する啓発番組や記事の掲載

重点施策Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実

市民の多様な学習の場となる生涯学習関連施設を、計画的に整備・充実するとともに、地域住民が気軽に集い、学びながら交流できる開かれた公民館や学習施設を目指す。

また、だれもが、必要とするときに学習情報を取得することができるよう、生涯学習ガイドの発行や生涯学習情報の一元化等、迅速かつ継続的な情報収集・提供に努める。

施 策	内 容
1. 生涯学習関連施設の整備と機能の充実	<p>①生涯学習関連施設の整備と機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星の郷ふれあいセンターの活用 ・アクティブライフ井原の備品の更新と活用 ・芳井生涯学習センターの施設整備と活用 ・井原市ふれあいセンターの備品整備と活用 開館時間の見直し（10時開館を9時に変更） ・美星天文台・星空公園の整備と利用促進 美星天文台の活用による天文の普及・啓発 101cm望遠鏡の一般公開と各種イベントの実施 ㊦館内展示の充実と宇宙の立体映像上映システムの整備 市内小・中学校等体験学習の推進 出前観望会等による啓発 関係団体等との交流、情報交換 星空公園での各種イベントの実施と利用促進 ・図書館の整備と機能の充実 図書館配本ネットワークの利用促進 図書館蔵書の充実 図書館書架の充実 ・新刊図書及び図書館事業のPRと利用促進
2. 公民館の整備と機能の充実	<p>①公民館の整備と機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主事配置による地域の特徴を生かした公民館活動の推進 ・笑って健康元気アップ事業の実施 地区公民館の企画による「笑いの講座」の開催 ・パソコン講座等の支援（貸出用パソコンの活用） ・地区公民館の施設・設備の整備充実 ・お知らせくんを活用した情報発信 ・公民館ホームページ開設に向けての整備

<p>3. 生涯学習関連情報の収集と提供の充実</p>	<p>①生涯学習ガイド等の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・生涯学習ガイド「まなびすと」等の作成 <p>②メディア等を活用した情報提供の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・市ホームページでの生涯学習カレンダーの活用・CATV、広報いばら、お知らせくん等の活用
-----------------------------	---

重点施策Ⅳ 市民と行政の協働による生涯学習の推進

市民のさまざまなニーズを的確に把握した魅力ある施策や、社会情勢の変化、新たな課題等への的確に対応するため、井原市第6次総合計画後期計画の策定にあわせて見直した、井原市第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づき、各種施策を実施する。

また、さまざまな分野で活躍している指導者や、地域に埋もれている人材の発掘、地域活動で大きな役割を担う社会教育関係団体等の育成を行う。

さらに、市民と行政が協働でまちづくりを進めていくための学習講座として開催している「いきいきいばら出前講座」の充実や、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業、「まなびめいと」の活動支援等に積極的に取り組む。

施 策	内 容
1. 生涯学習基本計画に基づく施策の推進	①生涯学習基本構想・基本計画に基づく施策の推進 ・第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づく施策の推進 ②社会教育委員会の機能の拡充強化 ・社会教育委員の研修等の充実
2. 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援	①市民組織づくりと活動支援 ・「アクティブライフ井原まなびめいと」等の活動支援
3. 生涯学習推進担当の体制整備	①生涯学習推進担当の整備 ・計画的な社会教育主事の育成
4. 生涯学習リーダー等の養成	①人材活用の拡充 ・ボランティア活動の推進
5. 社会教育関係団体等の育成・支援	①成人団体や青少年団体の育成・支援 ・地区青少年を育てる会、連合少年団、女性協議会、PTA連合会の育成・支援
6. 出前講座の充実	①出前講座の拡充と充実 ・いきいきいばら出前講座の充実と利用促進
7. 民間団体等との協働による事業の推進	①民間団体等との協働による事業の推進 ・学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業の実施 ・放課後子ども教室事業の実施（井原・芳井・美星小学校区） ・学校支援地域本部事業の実施（大江・野上・井原・西江原・県主・木之子・荏原小、美星中、芳井小中） ・⑩学習支援「地域未来塾」を開講（芳井・美星中） ・まなびめいと（少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽合奏団）の活動支援

重点施策Ⅴ 豊かな感性を育むまちづくり
(スポーツ活動の充実)

スポーツは、心身両面にわたる健康の保持増進に大きな役割を果たすものである。そこで、健康で心豊かな生活を送ることのできる社会の実現を目指すため、スポーツ推進計画に基づき、総合的なスポーツの推進を図る。

スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成などにより、スポーツ少年団やスポーツ団体の育成を図るとともに、総合型地域スポーツクラブ「いばら生き生きクラブ」の運営面・財政面での自立を支援する。

また、身近な場でスポーツに親しむことができるよう、スポーツ推進委員によりニュースポーツを主体とした講習会等を実施するなど、生涯スポーツの振興に努める。

競技スポーツの振興としては、体育協会、文化・スポーツ振興協会等との連携をとりながら、ハイレベルな大会に接する機会を提供するとともに、各種体育施設の体系的な整備により効率的な活用を図り、スポーツ指導者の確保やジュニアからの育成支援を充実させ、全国レベルのスポーツを育てるための環境整備を図る。

さらに、市民一人ひとりの年齢や体力、興味に応じてスポーツに取り組むことができるよう、スポーツ教室やスポーツイベント等の内容の充実を図るとともに、市民一人ひとりが健康づくりの大切さを再認識し、自らが進んでスポーツを行おうとする意識をもってもらうために定めた「市民スポーツの日」を実施するなど、市民が自主的にスポーツに取り組むきっかけづくりとなる場の提供や、スポーツの意義等についての啓発を図る。

施 策	内 容
1. 生涯スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・いばら生き生きクラブの自立支援 ソフトバレーボール、ゴルフ、弓道、ソフトテニス、テニス、陸上競技、卓球、合気道、華道、茶道、陶芸、野球、⑨バウンドテニス、⑩バドミントン (14種目15サークル) ・スポーツ推進委員によるスポーツ講習会等の実施 ・ニュースポーツのPRと備品の貸出
2. 競技スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の活用（各種スポーツ大会の開催） (井原体育館・芳井体育館) バレーボール大会、卓球大会、バドミントン大会、空手道大会、柔道大会、剣道大会、合気道演武会、ソフトバレーボール大会、新体操大会 (陸上競技場・芳井運動場・美星運動場) 陸上選手権大会、サッカー大会、ソフトボール大会、少年ソフトボール大会、ゲートボール大会 (野球場) 野球大会




	<p>(庭球場) 庭球大会</p> <p>(弓道場) 弓道大会</p> <p>(グラウンド・ゴルフ場) グラウンド・ゴルフ大会</p> <p>(ロード) 市民サイクリング大会、井原市駅伝競走大会、県高校駅伝競走大会（男女）</p> <p>(リフレッシュ公園野球場) 野球大会、ソフトボール大会、少年ソフトボール大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の育成 ソフトボール審判講習会、バレーボール審判講習会、軟式野球審判講習会 ・団体の育成支援 体育協会、各スポーツ協会、スポーツ少年団、高等学校、グループ等の活動支援 井原高校、井原ジュニア新体操クラブ、Sparkle 井原R.Gの新体操選手育成強化支援 ・全市的行事としての取り組み 全国健康マラソン井原大会、星の郷ふれあい健康マラソン大会、井原カップ男子新体操競技大会、井原新体操フェスティバル、市民ゴルフ大会 ㊦井原市体育協会40周年記念事業バレーボールVリーグプレマッチ ・スポーツ功績者・団体の表彰・顕彰 スポーツに功績をあげた個人・団体を表彰・顕彰
<p>3. 健康づくり・体力づくり・仲間づくりとしてのスポーツの振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育祭の開催 ・各種スポーツ教室の開催(スポーツ人口の拡大) 弓道、庭球、卓球、バドミントン、新体操、水泳 ・グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業の開催 ・井原・魚津スポーツ交流 しんきろうマラソンへの選手団派遣 シニア・ジュニア野球チーム交流事業 ・「市民スポーツの日」事業の開催
<p>4. 文化・スポーツ振興協会との連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの普及振興に寄与する事業及び活動を行う個人・団体への助成事業 ・スポーツ競技に功績をあげた者への激励事業

重点施策Ⅵ 地域文化を体感できる活力あるまちづくり
(芸術・文化の振興と文化財の保存・活用)

市民が生涯にわたって豊かな情操を養い、潤いのある生活を築き、個性ある地域文化を創造するために、また、優れた芸術文化にふれあう機会を拡充するとともに、芸術・文化団体の育成を図るなど、市民の芸術文化活動を促進する。

さらに、多くの市民が芸術・文化活動に主体的に参画することにより、市内・市外、老若男女を問わず、交流の輪が広がるよう、多様な芸術文化イベントの開催や芸術文化活動の拠点づくりを進める。

あらゆる文化財の保存を計画的に進め、市民の文化財保護意識と郷土愛を育むとともに、先人が守り伝えた文化遺産の積極的な活用を図る。

施 策	内 容
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興 (1) 芸術文化活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会、各文化グループ等の育成・支援 ・文化祭、文化教室での創作活動の推進 ・スクールコンサートの開催 ・井原市文学賞の開催 ・観月会の開催 ・岡山県美術展覧会井原会場の開催 ・宝くじ文化公演会の開催 ・田中美術館企画展・特別展の開催 春季特別展「平家物語を描く ー近代によみがえった古典」 秋季特別展「第27回平櫛田中賞受賞記念展」 ・田中美術館友の会の支援 ・市民ギャラリーの利用促進 ・市民茶室の利用促進
(2) 芸術・文化を通じた多様な交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民芸能祭 ・市民大学講座 ・市民会館自主事業 ・井原市史・芳井町史・美星町史等の活用 ・雪舟サミットへの参加（益田市）
(3) 文化施設の整備と特色づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・田中美術館所蔵作品の修復

<p>2. 文化財の保存と活用</p> <p>(1)文化財・歴史的資源の保存・活用</p> <p>(2)伝統芸能や祭りの保存・活用</p>	<ul style="list-style-type: none">・文化財保護審議会の開催(指定文化財の検討)・文化財センターの活用 埋蔵文化財の整理事業 体験講座・考古学講座・文化財めぐりの開催・文化財センター企画展の開催・歴史講座の開催・歴史人物紹介事業の実施・出前講座の推進・歴史民俗資料館の活用・歴史民俗資料館特別展・企画展の開催・星の郷民具伝承館の活用・桜溪漢学塾公園の管理・活用・名勝鬼ヶ嶽保存管理計画の運用による景観保全・文化財保護・保存及び助成事業・㊟「まんが井原昔ばなし」の制作 <ul style="list-style-type: none">・伝統芸能の保存・継承 渡り拍子保存会など
<p>3. 文化・スポーツ振興協会との連携</p>	<ul style="list-style-type: none">・各種文化事業への助成・文化功績者への激励事業・スクールコンサートの開催(再掲)・井原市文学賞の開催(再掲)・㊟宝くじ文化公演会の開催(再掲)

重点施策Ⅶ

生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり (時代に対応した教育施設・機能の整備・充実)

安全で安心な教育環境づくりとして、ハード面では、空調設備の設置を中学校（井原中学校を除く）から順次計画的に実施するほか、天井落下防止対策事業として危険な吊天井の撤去、また、木之子小学校および井原中学校体育館の改修工事、芳井中学校の屋根防水工事をはじめとした営繕工事に取り組む。さらには本年度から校舎の建替事業として、青野小学校管理棟改築事業と井原中学校校舎整備事業にも着手する。

ソフト面では、昨年度策定した井原市教育情報化計画を指針とし、学校間や各学校と教育委員会とのネットワークを構築する。あわせて、引き続き確かな学力向上のため、教育用振興備品の整備や蔵書等の充実に努める。

また、社会教育施設関係では、美星天文台に昼夜・天候に関わらず宇宙を体験できる立体映像上映システム（4D2U）を導入し、星空シアターのバージョンアップを図るとともに、芳井生涯学習センターの空調設備の営繕等、教育環境の整備・充実に努める。

施 策	内 容
1. 学校（園）施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○空調設備設置工事 <ul style="list-style-type: none"> 小学校 8校（H28設置予定の設備設計等） 中学校 4校（空調設備機器の設置工事等） ○校舎建替事業 <ul style="list-style-type: none"> 小学校 1校（青野小学校管理棟 1棟） 中学校 1校（井原中学校校舎 5棟） ○吊天井撤去工事 <ul style="list-style-type: none"> 小学校 1校（美星小学校体育館） 中学校 1校（芳井中学校武道場） ○教育ネットワーク構築事業 <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会 小学校 13校 中学校 5校 ○営繕工事 <ul style="list-style-type: none"> 小学校 9件（体育館改修工事等） 中学校 5件（体育館・校舎屋根防水工事等） 幼稚園 1件（園舎廊下補修工事） 給食センター 2件（床修繕工事等） ○校具、教具備品 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校管理費(校具) 非常勤講師用パソコン、印刷機、業務用冷蔵庫等 ・小学校教育振興費(教具)

<p>2. 社会教育施設・設備の整備</p>	<p>デジタル教科書・社会科副読本の更新、音楽・体育用教育振興備品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校管理費(校具) 非常勤講師用パソコン、印刷機、複写機、テント 等 ・中学校教育振興費(教具) 音楽・体育用教育振興備品 ・幼稚園 事務用パソコン、複合遊具、ワイヤレスアンプ 等 ・給食センター スチームコンベクションオーブン、縦型冷凍庫 <ul style="list-style-type: none"> ○公民館 <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(複写機、貸出用パソコン) ○青少年育成センター <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(テレビ) ○ふれあいセンター <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(人権啓発教材) ○アクティブライフ井原 <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(視聴覚ライブラリー用DVD) ○芳井生涯学習センター <ul style="list-style-type: none"> ・空調設備改修工事 ○美星天文台 <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(立体映像上映システム4D2U) ○文化財センター <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(複写機) ○田中美術館等 <ul style="list-style-type: none"> ・壁面等漏水修繕、エレベーターロープ取替 ・備品の整備(除湿乾燥機、複写機) ○運動公園等 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ改修工事(与一記念弓道場)、公共下水道接続工事(芳井体育館)、観客席改修工事(美星運動場) ・備品の整備(スポットクーラー、卓球台) ○海洋センター <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(プールコースロープ、救命胴衣) ○図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・備品の整備(書架、図書、DVD、CD、ブラインド、ファックス) ・電話設備の更新
------------------------	--

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

I 生きる力を育む学校づくり（学校教育の充実）

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
1. 確かな学力の育成 (1) 幼児教育の充実	幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実	各幼稚園の要請訪問等で研究テーマに基づいた教育要領の読み合わせ等により研修を深めた。	A	教育要領で重要視されている「健康の領域において研究を深めることができた。	A	
	幼稚園教職員研修の充実	6月11日に、幼稚園全職員を対象に、幼稚園教諭として資質能力の向上を図る研修会を開催した。	A	幼稚園教諭としての専門性を高め、保育の充実につながった。	A	
(2) 確かな学力と個の可能性を伸ばす教育の推進	幼稚園における3歳児教育の拡大	新たに、稲倉幼稚園において3歳児教育を開始した。	A	施設等において課題もあり、実施拡大に向けては、今後も引き続き検討が必要である。	A	
	放課後学習サポート事業	全小学校、3中学校に支援員を配置し、放課後に補充的な学習等を実施することで、学習内容の確実な定着を図り、児童生徒の学力向上を図った。	A	地域の方々の協力を得て、すべての小学校と3中学校で取り組むことができた。	A	
	地域土曜学習サポート事業	公民館等で、地域の教員OB等の人材を活用して、土曜日学習を実施し、児童の学力向上を図るとともに、地域の教育力の向上及び学校と地域との連携を深めた。	A	地域の方々の協力を得て、すべての小学校区で取り組むことができた。	A	
	全国標準学力検査の実施	新学習指導要領で示されている学力（基礎基本・思考力判断力表現力等）育成を図るための検査を実施した。	A	児童生徒の学力と課題について把握し、対応をすすめることができた。	A	
	いばらっ子イノベーション35推進事業（市費講師配置による35人以下学級編制）	市費講師1名配置による35人学級編制を行った。出部小学校 6年生に配置。	A	落ち着いた学級づくりときめ細やかな学習指導が可能となり、効果的であった。	A	
	いばらっ子伸びる学力支援事業（非常勤講師配置、小1支援員配置）	少人数指導充実のための市費非常勤講師配置 算数・数学科、国語科、英語科等において習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図った。高屋小、荏原小、西江原小、5中学校に配置。小1支援員は該当校がなかった。	A	基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。	A	
	英語授業の充実（ALT6人の活用）	市内幼稚園・小・中・高等学校へALT6人を派遣。小学校外国語活動、国際理解教育、外国語授業の助手として充実した働きをしている。1日の授業は3時間から5時間。1日7時間勤務。市内小学校では全校で年間35時間外国語活動を行った。学校では活用法の工夫をすすめている。	A	ALTは充実した働きをしている。学校でも活用されている。	A	
	デジタル教科書の活用推進	必要に応じて写真、動画、音声等による教材提示ができるため、授業において活用されている。児童の学習意欲向上、基礎基本の定着のために有効である。	B	小学校では多く活用されているが、中学校では教科領域や授業形態によって活用状況の差が大きい。	B	
	片山科学賞基金運営事業	片山科学子ども教室を、芳井生涯学習センターで8月7日に開催した。科学する心の育成に資するため、小・中学校の児童生徒の科学研究・発明工夫を表彰した。表彰された作品は「科学する心」という研究収録にまとめられた。	A	片山科学賞は28回、片山科学子ども教室は14回を数え、科学する心の育成に寄与している。	A	
	(3) 高校教育の充実	基礎学力の充実	入学当初の学習ガイダンスや家庭学習時間調査を実施し、予習・復習の学習方法を理解させ、家庭での学習習慣を定着させている。習熟度別・少人数での授業・複数の教員での対応など、生徒一人ひとりに「分かる授業」が実感できるよう工夫と実践を繰り返している。	A	学習方法を理解することから始まり、基礎学力を充実させ、進路保障に繋げている。	A
キャリア教育の充実		4年間を見通した体系的な指導計画を立て、職業体験学習・事業所見学・進路講演会など、毎月進路行事を実施し、自分にあった進路の早期決定を促した。特に第3学年の学校設定科目インターンシップに重点を置き、保護者との連携を強化した。	A	4年間の集大成として、昨年度、一昨年度に引き続き希望する進路を100%実現することができた。	A	
各種検定・資格の取得推進		多くの生徒が様々な検定に挑戦し、資格を取得している。漢字能力検定では2級2人、準2級2人、3級6人が合格、その他食物調理技術検定3級が2人、4級が11人、簿記検定3級が1人、電卓検定1級1人、3級が3人合格する等多くの資格を取得している。	A	様々な検定に挑戦し、資格を目指すことで学習意欲の向上が見られる。	A	
(4) 特別支援教育の推進	学習支援員の配置と活用	原則として通常学級に在籍する特別支援の必要な児童生徒の支援を行った。6時間×200日25人（高小2、大小2、稲小1、県小1、木小1、荏小1、西小2、野小1、青小1、井小1、出小3、美小1、芳小1、高中1、木中2、井中2、美中1、芳中1）	A	成果は大きい。特別支援の必要な児童数増に伴い、今後増員の必要性がある。	A	
	巡回相談員の配置と活用	巡回相談員1名を配置し、保育園、幼稚園・小学校・中学校への巡回相談を実施した。	A	専門家を学校へ派遣することによって、適切な指導助言を受け、特別支援教育に関する指導の改善を行うことができた。	A	
(5) 教師力の向上	若手・中堅教員研修の充実	教員の指導力向上を図るため、近隣市町と協力して開催した。笠岡市で若手研修を7月28日に行い、井原市で中堅研修会を8月10日に行った。	A	教員の指導力向上とともに、ネットワークづくりにも効果的であった。	A	
	研究指定校による研究発表会	木之子幼稚園、青野小学校において、研究成果を発表した。	A	各校園の児童生徒の実態に基づき、幼稚園教育要領、学習指導要領の指導内容を踏まえた学習指導法の研究を進めることができた。	A	
	井原市学校教育研究会研修事業の実施	各班において夏季休業中の班会等を開催した。	A	教職員の自主的な研修を推進することができた。	A	

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価		
	教育講演会の開催	「スポーツから学んだ思いやりと努力する習慣」をテーマに、元ハンドボール日本代表主将東俊介先生を講師に8月19日に教育講演会を実施した。	A	夢先生として「夢の教室」で子どもたちに伝えてこられた「思いやりと努力する習慣」について講演を聞くことで、教師が子どもたちに夢を語る大切さを感じることができた。	A		
	定期及び要請による学校訪問	定期の学校訪問：5月～7月にかけて実施。諸帳簿の検閲、授業視察等を含め、教職員と協議・懇談を行い、教育実践の向上に努めた。要請訪問：随時 研究授業を中心に、指導方法の研究、工夫改善を図った。各校園 1回～2回実施	A	学校の実態を把握し、授業力向上、指導方法工夫改善、服務関係について具体的な指導助言を行うことができた。	A		
	ICT支援員の配置と活用	学校でのICT活用を推進するため、授業や研修等において教育のICT活用をサポートする「ICT支援員」を配置し、教育活動の充実を図った。 2人配置 学校HPの更新、教材作成補助、ネットワーク調整等を行った。	A	ICT活用のための有効な支援ができた。また、ネットの危険性について研修会の提案などができた。	A		
	⑧ 教師業務アシスタントの配置	井原小学校に教師業務アシスタントのを配置し、指導資料の印刷や、ICT機器の準備および片付けなどの「授業準備」や、調査統計作業や、データ入力作業、会議資料や議事録の作成などの、「教員が行う事務作業の支援」さらに、「教育活動に係る事務補助」「課外活動に係る事務補助」を行う。	A	教師業務アシスタントの配置により、教師が本来の仕事に専念でき、現在の教育課題である「学力向上」や、問題行動を減少させたりする取り組みを進めることができた。	A		
2. 豊かな心の育成 (1) 心の教育の推進	情報モラルに関する指導の充実	県総合教育センター、県義務教育課等作成の資料等を配布し、指導を徹底した。情報教育班会を開催し、県総合教育センターから講師を招いての講演会を行った。	A	生徒指導上の問題に、ライン等のトラブルが増加し、対策が急務であった中、大変有効で効果的であった。	A		
	ふるさと井原魅力発見事業	児童生徒を対象に、田中美術館見学、古代文化財センターでの体験学習、星の郷ふれあいセンターでの宿泊研修を実施し、ふるさと井原の魅力を発見し、自信と誇りを持たせるとともに、豊かな体験を通じた道徳性の育成を図った。 田中美術館・まほろば館：隔年実施の青野・野上小以外の小6 宿泊：9校の小4 高屋小、稲倉小、県主小、木之子小、荏原小、青野小、井原小、出部小、芳井小	A	各校工夫や協力をして、豊かな体験活動を行った。活動前には目的について事前指導を行い、活動後は振り返りを行い自分たちの成長を確認していった、小4の宿泊は4校増え、9校の実施となった。中学校の美術館見学は、小学校6年で実施済みのため27年度から中止した。	A		
	スポーツふれあい交流事業「夢の教室」	全小学校の5年生を対象に夢をかなえるために努力した日本のトップアスリートを「夢先生」として派遣し、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さ等を学ばせる。(野上小・青野小は隔年実施)	A	児童は本物のトップアスリートと出会うことで、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学べた。	A		
	地域教材を活用した道徳教育の推進	郷土の偉人を題材とした教材を用い、生徒の実態に合わせ工夫して授業に活用した。	B	地域の実態に応じたもので、各学校の取り組みに差がある。	B		
	学校司書の配置と読書活動の推進	学校司書9人配置。学校図書館司書による自主研修活動を実施した。 内容：図書管理、推薦図書の紹介方法等。児童生徒への広報活動、朝読書の取組の充実、読書の時間の確保、家庭読書の充実等を各学校に呼びかけた。	A	司書同士の情報交換を行うことができ、図書館教育の充実を図ることができた。	A		
	人権教育担当者研修会の開催	人権教育担当者会を12月8日に開催し、人権教育を推進する上での課題について協議した。	A	人権教育、発達障害に対する理解の推進に取り組んだ。	A		
	⑧ キャリア教育実践モデル開発事業	夢や希望をもち地域・社会に貢献しようとする児童生徒を育成するという視点に立ち、小中学校におけるキャリア教育を推進するため、キャリア教育の体制・計画づくりや、創意工夫を生かした取り組みを研究実践する。中間発表会を10月20日美星小で行った。	A	何のために学ぶのか、学びを通してどんな自分になりたいか考えさせる実践ができた。	A		
	⑧ 長期宿泊体験	小学校における宿泊体験活動の実施日数を3泊4日へ延長することにより、自然体験活動を初めとする様々な体験活動を通して、自立心や主体性を育み、規範意識、人間関係構築力、問題解決能力等を高め、子どもたちの豊かな心の育成を図る。(荏原小5年生)	A	児童に対する事前・事後の調査の比較では、積極性や現実肯定の値や、日常的行動力の値も上がっていた。	A		
	(2) 生徒指導の充実	明るい学校づくり支援事業(Q-U検査)	年2回、児童生徒を対象に、学級内での子ども同士の間関係についてアンケート調査を実施し、いじめや不登校の早期発見及び未然防止を図るとともに、学級崩壊を予防し、よりよい学級集団づくりを推進した。	A	いじめや不登校、学級崩壊の予防等よりよい教育実践のために活用した。	A	
		⑧ ネットとスマホ利用改善の推進	4月13日に、ネットとスマホについての学校保護者連絡会を開催し、取り組みについて現状の情報交換を行い、今後、学校・家庭での取り組みについて協議を行った。学校では、児童・生徒の自主的なルールづくりを行い、家庭でもルールづくりを進めていく。	A	児童・生徒にルールづくりの必要性について考えさせた。保護者向けの研修会を各校園で行った。	A	
	不登校児童生徒の適応指導対策事業	・適応指導教室において、不登校児童生徒に適応指導を行った。通室した児童生徒は16人であった。(小5人、中11人) ・県の事業により配置されたスクールカウンセラーを活用した。(井原小、出部小、美星小、中学校5校) ・スクールサポーター配置事業(中5校)の実施し、児童生徒の教育相談、ケース会議参加、適応指導教室との連絡調整にあたった。 ・問題行動対策コーディネータ配置事業を実施し、学校や適応指導教室その他関係機関との連携強化を図る問題行動対策コーディネータを1名配置し、不登校児童生徒の自立支援のための事業を実施した。 ・訪問カウンセラー事業の推進し、訪問カウンセラーが定期的に学校や不登校傾向をもつと思われる児童生徒の家庭等を訪問し、指導を行い、不登校の未然防止に努め、出現率を下げる事業。訪問カウンセラー1名を配置した。 ・登校支援員を配置し、不登校傾向のある児童やその家庭に対して、教職員と協力しながら登校支援や教室・別室での学習支援や保護者等に対する相談支援を行う。(稲倉小、西江原小、井原小、出部小、美星小)	A	大山塾への通室する児童生徒が増加し、学校復帰の効果も見られた。 不登校問題の他、生徒指導上の諸問題に対応できた。 不登校児童生徒の学校復帰に向けての効果があった。	A		

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
	⑨ いじめ問題対策連絡協議会	いじめから子どもを守り健全な育成を図るため、学校における有効な取組の実践と学校、家庭、地域、関係機関や団体等との連携を強化し、いじめ問題の未然防止及び早期発見・解決を行うことを目的に、井原市いじめ問題対策連絡協議会を設置し、会議を開催した。	A	関係機関の取組等の情報共有及び連携した施策の実施や、意見交換、いじめ防止に向けた施策の実施状況等の取りまとめを行った。	A	
3. 健やかな体の育成 (1) 基礎体力・運動能力の向上	⑨ 体力づくり推進事業	小中学校全校実施。その結果を各校で分析し、課題を明らかにし、体力向上の取り組みを行った。	A	業間運動、県主催のチャレンジランキングへの参加等、各校で自主的な取組を行った。	A	
	幼稚園児体力テストの実施	全幼稚園において幼稚園児体力テストを実施し、幼児の体力の現状把握や課題を明らかにした。	A	体力テストの結果を幼児の体力向上に活用することができた。	A	
	健康づくり優良児童生徒表彰	健康づくりに努力している児童・生徒の表彰を行い、健康に対する関心と意欲を高めた。学校保健会において表彰を行った。小学校14人、中学校2人 計16人を表彰。1月21日(木)審査会開催	A	児童生徒の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。	A	
(2) 保健・安全教育の推進	いばらっ子生活リズム向上プロジェクト	市内の保育園・幼稚園児から高校生までの、すべての子どもを対象として、生活リズムの向上と改善に取り組み、子どもの意欲や学力、体力の向上、情緒の安定を図ることを目的に実施した。成果の一部を学校保健研究大会で報告した。	A	園児・児童・生徒の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。	A	
	防災教育の推進	学校の危機管理マニュアルや防災計画の確認とともに、定期的な避難訓練等の実施について指導した。	A	各校の実態に合わせた計画のもと、防災意識の高揚に効果があった。	A	
	交通安全教育の充実	各校・園交通安全教育実施(年間2回程度実施)	B	幼児・児童・生徒の交通安全意識の向上が図られた。	B	
	防犯意識の高揚と啓発活動	各校・園防犯教育実施(年間1~2回実施)	A	幼児・児童・生徒の防犯意識の向上が図られた。	A	
	小児生活習慣病予防健診の実施	小学校4年生298人、中学校1年生311人を対象に実施。	A	結果により生活の改善が認められる児童・生徒が見受けられ、効果があった。	A	
	薬物乱用防止教室等の推進	各校において、性教育・エイズ教育及び薬物乱用防止教室を実施した。	A	定着してきており、計画的な実施となっている。	A	
(3) 食育の推進	⑨ 岡山県学校保健研究大会の開催	健康教育に関する諸課題について研究協議し、学校保健の充実発展に資する大会県内の会場を持ち回りで開催し、平成27年度は井原市で開催。	A	地元開催をすることで学校保健に対する意識が向上するとともに、関係団体との連携が密になった。	A	
	笑顔の食育参観日(朝食パワーアップ事業)の実施(全幼)	保健センターから栄養士が幼稚園に行き、食育指導と、調理実習から会食までを、園児と保護者を対象に行った。全園1回の実施。	A	朝食をきちんと取ることの必要性について保護者に啓蒙できた。	A	
	栄養教諭による食育の推進	学校給食センターは栄養教諭1名・学校栄養職員1名の2名体制、美星調理場は栄養教諭1名体制で、積極的に学校園へ出向き、給食を活用した食に関する指導を行い、食育の推進を図った。	A	授業を通しての食に関する指導や、学校保健委員会への参画、親子料理教室の実施等を行った。	A	
	学校給食における地産地消の推進	地元生産者団体との連携・調整を図った。地場産物の利用を拡大するための献立の工夫、給食だより(献立によせて)に地場産物を紹介。食育通信「スクールランチ」への掲載・発刊。	A	できる範囲内で、市内産・県内産・国内産を優先的に取り入れ、地場産物の活用に努めた。	A	
	学校給食における食物アレルギーへの対応	食物アレルギー調査実施。アレルギー記載予定献立表の配付。学校給食センターは、卵除去食を提供。美星調理場は、代替食・除去食を提供。	A	卵の除去食を実施している。アレルギー記載予定献立表の配付により、家庭の協力をいただきながら対応することができた。	A	
	食育担当者研修会の開催	6月1日に開催。食育推進について栄養教諭が説明。次に、各校園の食に関する指導に係る全体計画をチェック。最後に荏原幼稚園から、食育に関する事例発表を行った。	A	各校園の食に関する指導や取り組みの一層の充実に努めた。	A	
	食育講座の開催	幼稚園児と祖父母を対象にした「ふれあい給食」を美星調理場、井原センターでそれぞれ1園ずつ実施、調理場の見学と試食・食育指導を行った。芳井町明治地区を会場として、ごぼう掘り体験・明治の野菜を使用した調理実習を11月に開催。	A	生産者、給食センター、園、学校(給食主任・園児・児童・生徒)、保護者との交流により、学校給食への理解が深まった。	A	
4. 学校・家庭・地域社会の連携 (1) 家庭や地域の教育力の向上	学校支援ボランティアの活用	各校において、放課後等の学習支援、各教科、道徳、総合的な学習の時間等における学習支援ボランティアを募集し、児童生徒の学習活動の支援を行った。	A	小中学校においては、それぞれの学校で積極的に活用でき、成果を上げることができた。	A	
	学校支援地域本部事業の推進	大江小、野上小、井原小、西江原小、県主小、木之子小、荏原小、美星中、芳井小・中において、学習支援、環境整備、学校行事の支援 子どもの安全確保などが地域住民のボランティアによって行われた。	A	学校とコーディネーターが連携して地域住民による学校支援ボランティア活動を行うことができ、他の地域のモデルとなっている。	A	
	教育広報誌(ともなび)の発刊	1月の1回発行した。発行部数6,000部。	A	情報発信の効果があつた。学校での学力向上の取り組みを伝えるとともに、家庭でも生活リズムを整え学習環境を整えるよう依頼ができた。	A	

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
(2) 開かれた学校づくりの推進	開かれた学校づくり推進事業の実施	学校が家庭や地域社会と連携を図り、ともに子どもたちを育成するための事業を委託。小学校13校、中学校5校、市立高校1校。	A	小学校では地域の人との交流学习や伝統文化の継承、中学校では地域に根ざしたボランティアや郷土学習に活用された。	A	
	学校評価・学校評議員制度の積極的活用	幼・小・中・高で各学校の取り組みについて、学校評価を実施し、成果と課題を明らかにした。	A	幼・小・中・高で学校評価（自己評価、学校関係者評価）を実施し、市教委へ報告書を提出した。	A	
	学校ホームページの充実	学校ホームページを開設し、積極的に学校の取組の紹介を行った。全ての小・中・高等学校で運用した。	A	すべての小・中・高等学校でホームページを立ち上げ、随時更新を行い、情報公開に努めている。	A	

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

Ⅱ 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
1. 家庭教育機能の向上	①子育て支援体制の整備					
	子育て支援課、健康医療課、図書館等との連携・協力	つどいの広場（子育て支援課）職員、健康医療課職員、図書館司書、読書ボランティア等で井原子ども読書推進実行委員会を構成。実行委員会を年2回開催し、子ども読書推進事業計画の説明、実施方法の意見交換、翌年度事業計画の作成及び事業実施後の検証・評価を行った。	A	学校、行政、ボランティアなど関係部署と連携・協力しながら事業を実施することができた。	A	
	井原子育てネットワーク協議会との連携	協議会を年2回開催。ライフステージに応じた課題別子育て講座、子育てサポーターの養成及び活動支援、次世代の親となる中・高校生とのふれあい交流事業、親育ち応援講座について審議し、企画・運営を行った。あわせて情報交換を行った。	A	福祉部局・教育委員会が連携し、様々な場面で子育て支援事業を展開することができた。	A	
	②子育てに関する学習機会の拡充					
	ライフステージに応じた課題別子育て講座の開催	5つのステージに分けて子育て講座を実施した。妊娠期子育て講座 6回 参加者延べ 37人・幼児期子育て講座 20回 参加者延べ 958人 学童期子育て講座 14回 参加者延べ 1,005人・思春期子育て講座 5回 参加者延べ 1,467人 その他の機会を活用した子育て講座 年2回 参加者延べ34組70名 親の学び推進事業の一つとして、親育ち応援出前講座を実施した。親育ち応援学習プログラムにそったワークショップ型学習会を5/29、6/9、8/7、2/5、2/28、3/23の6回実施。参加者延べ153人。	A	各校園やPTA、家庭教育学級等において、各ライフステージの課題に応じた子育て講座になるよう、テーマや学習方法、講師の選定等を工夫して行っている。	A	
	子育て支援講演会の開催	中央家庭教育学級とくらしと人権講座、成人大学講座、井原市立視聴覚ライブラリーの4講座合同で子育ての講演会を実施。参加者268人	A	4講座の合同開催とすることで、幅広い世代の方に参加していただくとともに、子育てについての認識を深めていただく機会を提供することができた。	A	
	子育てイベントの実施	子育てサポーターが中心となり開催する、子育てイベント「第12回 ほっぷすてっぷおやこ de ぼん」を9/6に開催した。「みんなで心をひとつにしよう!!」と題して参加者の共感をテーマにイベントを開催した。参加者全員での読み聞かせ体験や親子体操の他、発達年齢に応じた遊びの提案や体験を3会場に分けて実施した。参加者は152名（子ども76名・保護者76名）	A	「共感」をテーマに、子ども同士、子どもと大人等参加者全員が心をひとつにして体験できるイベントの企画・運営・開催を子育てサポーターが行った。イベントでは、子どもだけでなく大人も一緒に楽しむことができ、家族のふれあいの場となることができた。	A	
	子育てサポーターの養成及び活動支援（派遣託児）の実施	12/1、12/5の1回、子育てサポータースキルアップ講座を開講し、新規サポーターの養成と、サポーター登録者のスキルアップを行った。また、年間を通して井原保健センター事業での託児や子育て相談、井原市の主催・共催事業での託児のため、サポーターの派遣を行い、9/6には子育てイベントを開催した。	A	平成23年度より実施している井原市派遣託児サービス事業においても周知ができ、井原市が主催または共催する事業に対して子育てサポーターの派遣を行っている。平成27年度には登録サポーターが55人になったことから、新規の養成に加え、登録サポーターのスキルアップにも重点をおき、活動の現場の実状に応じた内容の講座を開催し、サポーターの養成や資質の向上を図ることができた。	A	
	家庭教育学級（中央・各地区）、幼児教育学級、婦人学級等の支援	中央家庭教育学級では、年間5回の学習会を行い、親として子どもの自立に向けた学習と学級運営に必要な知識・技術を高めるための学習を行った。また、各地区家庭教育学級・幼児教育学級・婦人学級の運営や学習会の内容についての助言を行った。	A	中央家庭教育学級では地域のリーダー養成や情報交換の場を提供するとともに、各地区では、地域の実情に合った学習会の計画が立てられ、伝統を守りつつ、新しい内容のものも取り入れた学級運営がされた。	A	
	2. 社会教育における学習機会の提供	①子どもの学習生活環境の整備充実				
子ども読書活動推進事業 絵本づくり講座の実施 読み聞かせボランティアの養成 年齢別絵本ガイドの作成		「親子で手作り絵本を作ろう!」を開催 参加者31人 読み聞かせボランティア講座 全4回開催 延べ70人参加。 年齢別絵本ガイドを530部作成し、児童会館やつどいの広場などの子育て関連公共施設に配付。	A	親子で絵本づくりをすることで、子どもたちの絵本への興味を高めるとともに、子どもたちの創造力を養うことができた。また、読み聞かせボランティア講座を通じて、井原市で活動する読み聞かせボランティアの資質の向上を図るとともに、交流の機会を提供できた。	A	
学びのポイントラリーの推進		夏休み前・冬休み前の年2回、登録プログラムをとりまとめたチラシを作成し、小中学校に配付し、併せて夏休み前にはチラシといっしょに周知も兼ねて市内小学校4年～6年・市内中学校全学年にポイントカードを配布した。また、公民館長会等で登録対象団体に事業の周知を行い、登録プログラムの増加を呼びかけた。プログラム登録団体に資材配付。（登録プログラム100：昨年度より5増加） （認定証交付実績：平成27年度 小学生 2人 ・ 平成26年度 小学生 3人）	B	昨年度に引き続き、地区公民館やまちづくり協議会等に事業登録を呼びかけることにより、登録プログラム数の増加に努めるとともに、認定証の交付の際には、学校の全校朝礼等での表彰を願ひし、子どもたちの参加意欲を高める工夫を行ったが、認定証交付者の増加には至らなかった。	B	
子ども情報紙「でんしょばと」の発行	井原に関連する施設や歴史等に関する情報紙を年3回発行した。各回6,000部作成し、市内各保育園・幼稚園・小学校・中学校の全ての園児・児童・生徒へ配付した。	A	市内の子どもたちに興味を持って読んでもらえるよう、編集委員とともに工夫し、情報発信をした。	A		

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
	笑って健康元気アップ事業 生活リズム向上・食育事業と併 せ、のびのび合宿の実施	8/19～20の1泊2日でのびのび合宿を実施し、市内小学4年生から6年生26人参加。 はつらつ井原ふれあいフェスタの食育コーナーで活動の様子の紹介と食育の啓発を行った。	A	参加した子ども達は、他校の仲間とふれあ いながら、生活習慣や食育の大切さを学ん だ。	A	
	いばらっ子生活リズム向上プロジェ クト事業の実施	市内の全学校園を対象に実施した生活調査結果のフィードバック、各校園の取組をまとめた冊 子の作成・配付、教職員・保護者・地域住民が情報交換できる研修会の開催、新たなりー フレットやすごろく付クリアファイルの作成・配付等を通して、各学校園や家庭での生活リズム 向上に向けた取組を支援した。	A	全市的に継続した取組を実施したことで、 子どもたちの生活リズム向上に向け、学校 園を中心として学校・家庭・地域が一体と なった主体的な活動が根付きつつある。	A	
	ブックスタート事業の実施	4か月児健康診査の際に絵本を送り、絵本を介して心ふれあうひと時を持ち、読書のきっかけ をつくっており、202人に贈呈した。ブックスタートバックの内容は、絵本2冊・イラストアド バイス集・絵本リストであるが、配布にあたっては、ボランティア登録者48人に協力をいただ いている。	A	絵本を通じて赤ちゃんの読書のきっかけづ くり、赤ちゃんと保護者との会話のきっか けづくりができた。	A	
	セカンドブック事業の実施	「ブックスタート」のフォローアップ事業として、ブックスタートで始まった絵本との関わり をさらに継続していくことを目的としている。ボランティア登録者35人に協力をいただき、2 歳児健康診査の際に255人に読み聞かせを実施した。	A	子どもと保護者が一緒に絵本を開く時間の 楽しさを今一度再確認してもらい、家庭で の子ども読書活動をさらに広げる支援が できた。	A	
②青少年の健全育成						
	連合少年団 少年団体等指導者養成 講座・ジュニアリーダー養成講座の 開催	6/20～21に、少年団体等指導者養成講座（1日目：21人、2日目：10人参加）およびジュニア リーダー養成講座（1日目：73人、2日目：68人参加）を開催し、野外炊事やロープワーク等の 講座を実施した。	A	子どもたちに野外活動を通じた体験活動の 場を提供するとともに、単位団の指導者の 育成も図られ、各地区で行うキャンプ行事 においても役立つ内容であった。	A	
	連合少年団 少年レクリエーション 大会の開催	【雨天中止】 11/14に、大江小学校とその周辺で、井原市少年レクリエーション大会を計画。 (応募チーム数 31チーム、応募人数 329人)		—		
	少年団指導者ブックの活用	年度当初に各地区の連合少年団運営委員に配布し、指導者養成講座等を通して活用した。地域 の少年団活動にも役立っている。		少年団体の活動の意義、活動内容の具体 例、安全対策などについて広く周知でき た。		
	友好親善都市児童交流事業（魚津市 ・大田原市）の実施	【魚津市から来井】8/1～3 田中美術館・夏まつり・鷺羽山ハイランド・瀬戸大橋・瀬戸内海 遊覧・美観地区散策・花火大会・弓道体験など 参加児童：井原19人、魚津20人 【大田原市へ訪問】8/6～8 与一伝承館・華厳の滝・日光東照宮・与一祭り・自然観察館など 参加児童：井原20人、大田原20人	A	それぞれの活動を通して、両市の子もた ちがふれあうことで、親睦を深め、両市の 友好を図るとともに、青少年の健全育成を 図ることができた。	A	
	新成人の主体的な取り組みによる成 人式の実施	成人式実行委員10人により実行委員会を4回開催し、成人式の役割分担（司会・記念品受領・市 民憲章朗唱・誓いの言葉）や記念行事等の企画を行った。 特に、本年度は、記念行事として、恩師からのビデオレターのほか、新しく成人になられた方 の中に、アイドルデビューした歌手がおり、その方の申し出により、ミニコンサートを開催で きるなど、成人式に花を添えたいいただいた。（対象者：479人 出席者：395人）	A	新成人の方に企画運営に参画していただく ことにより、厳粛で思い出の残る成人式を 実施することができた。	A	
	地区青少年を育てる会等の活動支援	補助金を交付し活動を支援している。60千円×13地区 各地域で子どもたちの登下校時の見守り活動（青色防犯パトロール等）や地域の人材や特色を 生かした体験の場（とんど、もちつき、しめ縄づくり、高齢者とのふれあい等）を提供してい ただいている。	A	活動促進のための有効な助成となった。	A	
	青少年育成センター事業、教育相談 室事業の推進	青少年育成センターの事業では、井原市内の青少年の健全育成に携わる各種団体・機関との連 絡調整を行い、明るい家庭づくり作文、青少年健全育成表彰、街頭啓発などの健全育成事業の 実施を行っている。また、年間を通して、市内の補導活動、バス・列車を使った近隣市町村ま で往復する広域補導を行っている。教育相談室事業としては、随時相談を受け付ける他、月1 回（第3金曜日）、特別教育相談日とし、より専門的な相談ができる機会をもうけている。	A	各種団体・機関等との連携も図られ、各種 事業をとおして、市民への意識啓発や相談 事業等、青少年の健全育成を図ることが できた。	A	
	⑨ 子ども・若者育成支援事業とし て、若者の「学び」と「集い」の場 「夢源塾」を実施	井原市中央公民館事業として取り組み、平均して月1回以上集う機会を設けた。年間を通し て、市内外のNPOや団体で活躍している方の講演やワークショップを行う学びの場として「夢 源塾」を開催した。集いの場としては若者が気軽に話したり、市の行事への参加を計画したり する「夢源Makers会議」「You&Meカフェ」を開催した。また、祭りやまなびフェスタなどの 行事での発表等の活躍の場を設けた。 (夢源メーカーズ：中学生 17人 ・ 夢源サポーターズ：大人 42人)	A	夢源メーカーズ（子ども）の対象範囲を中 学生まで拡大することにより、市内全中学 校区からの参加者が得られるとともに、夢 源サポーターズ（大人）の参加者も増え、 先駆的な取り組みの話の聞いたり、サポー ターとの交流、また、地域行事への参画を とおして、自己肯定感や地域への愛着心を 高めるとともに、キャリア教育の場の提供 にもつながった。	A	
③成人期の生涯学習						
	成人大学講座の開設	年間3講座を実施。（子育て・男女共同参画社会・協働推進課） 合計延べ参加者322人	A	講演内容や他講座との共同開催など、開催 内容を工夫することにより、幅広い年代の 方に様々な学習の場を提供することができ た。	A	
④高齢期の生涯学習						
	高齢者学級の開催 （寿大学院、芳寿大学、長寿学級・ むつみ会）	寿大学院 9回 延べ参加者1,567人（第3回学習会は台風により中止） 芳寿大学 9回 延べ参加者1,372人 長寿学級 8回 延べ参加者1,085人 むつみ会 12回 延べ参加者 218人	A	例年多くの申込者があり、講座の内容も可 能な限り要望を取り入れた。また、「笑い の講座」も各学級（むつみ会を除く）の中 で1回実施した。	A	

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価	第 三 者 評 価	
3. 多様な学習課題への対応と学習機会の充実	①情報化に対応した情報教育の基盤整備				
	パソコン講座の開催	全4講座（Excel入門、Excel会計、オンラインゲーム、デジカメ写真加工）を実施。受講申込者数は延べ36人。（1講座平均9人・定員17人） 1講座は、1回2時間を4回行う。	B	応募数が減少傾向にあり、講座を一つ開催できなかった。魅力ある講座づくりのため、SNSの基本的使い方など、新たなテーマの講座を開催を検討する。	B
	②人権が尊重されるまちづくりの推進				
	くらしと人権講座の開設	8月から1月までに8講座を開設した。会場は井原4回、芳井1回、美星1回、井原市ふれあいセンター1回、現地研修（なのはなファミリー）1回。受講者延べ人数1,332人	A	多くの市民方々が人権問題に対する学習ができるよう、各回のテーマが重複しないよう工夫し、様々な観点からの人権について考える学習機会を提供することができた。	A
	諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進（PTA、地区、企業等）	市内全ての学校園でPTAを中心として企画された人権教育研修会が年2回程度行われている。公民館、婦人学級などでも年間の計画に沿って人権教育研修が行われており、地区公民館、自治公民館ともに人権に関する出前講座を実施した。	A	市内学校園のPTA、公民館及び各種学級で人権教育に係る研修会が開催されるとともに、出前講座を活用した人権講座も企業や各団体で開催され、効果的な人権啓発が行うことができた。	A
市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進	「人権が尊重されるまちのつどい」を市長部局（協働推進課）と連携して開催した。「2015男女共同参画地域フォーラムinいばら」を市長部局（企画課）と連携して開催した。	A	企画・運営から関係部局と連携して開催することができ、多くの方々に研修をしてもらうことができた。	A	
井原市ふれあいセンターでの交流活動等の推進	成人教養講座5、小学生教養講座2、ふれあい交流活動及びまつり行事11、合計18の主催事業を実施した。支援事業としては、各種サークル活動や子ども会活動に加えて、地域の団体の活動も行われた。年間を通して、市民の交流の場となっている。（延べ利用者数 5,853人←前年実績 5,666人）	A	主催事業、支援事業ともに計画的、積極的に行われ、近隣の人々の交流の場ともなっている。また、新たなサークル活動も行われるなど、利用者の増加につながった。	A	
4. 芸術・文化活動の振興	①交流を生み出す芸術・文化の振興				
	文化講演会、コンサートの開催	文化講演会 11/10 三浦雄一郎 来場者362人 コンサート 2/12 秋川雅史 来場者467人	A	実行委員会において、講師や出演者の選定を行うなど、市民ニーズに合った、質の高い講演会やコンサートが開催されており、市民に定着した事業として来場者には喜んでいただいている。	A
	優秀映画鑑賞会・子ども映画会の実施	優秀映画鑑賞会 5回（2会場）5作品 延べ780人（アクティブライフ井原4回、芳井生涯学習センター1回） 子ども映画会 3回（1会場）3作品 延べ503人（アクティブライフ井原） 視聴覚ライブラリーコレクション 1回（1会場）4作品 延べ603人（アクティブライフ井原）	A	井原会場のほか、芳井会場でも開催することにより、鑑賞機会を増やした。上映作品に関しては、昨年度アンケートや世間の話題作を参考に、作品を厳選したこともあり、来場数は格段に増加した。子ども映画会では、成人大学講座との合同開催という新しい試みもあり、集客数を増やしている。実施回数も増えたことで、延べ600人以上の集客があった。	A
5. 学習ニーズの把握	①学習ニーズや意識の把握				
	各種事業等開催時のアンケート調査の実施	事業実施の都度簡易アンケートを実施、今後の事業展開の目安としている。	A	事業を計画する際の参考として、事業に反映するなど、参加者のニーズに合った事業の実施につながっている。	A
6. 総合的な啓発事業の開催	①学習意欲を高揚するイベント等の開催				
	生涯学習の集い、文化祭等の開催	1/30、31の2日間、生涯学習の集い「まなびフェスタinいばら」を開催した。大勢の参加がある恒例の行事となっており、生涯学習推進の一助となっている。また、地区公民館において、文化祭等を開催し、作品展示や舞台発表等を行った。	A	まなびフェスタや市の文化祭だけでなく、地区公民館において、学習成果の発表の場や体験する機会を提供することにより、参加者の学習意欲を向上させるとともに、来場者の生涯学習に取り組むきっかけづくりにもなっている。	A
7. 意識を高める啓発活動の推進	①CATVや広報誌等による啓発				
	生涯学習に関する啓発番組や記事の掲載	各種の講座やイベントについて、啓発活動の一環として、市広報・CATV・お知らせくん・チラシ等を活用し、適時広報を行った。また、生涯学習関連の情報を掲載した「生涯学習カレンダー」の運用に努めた。	A	市広報やチラシはもとより、CATV、お知らせくん、市のホームページ等、各種媒体を通じて、タイムリーな情報発信を行うことができた。また、生涯学習カレンダーの運用によって、情報端末さえ持っていれば、市民が生涯学習課以外の部署による講座や学習会を含めた行事予定を一覧で確認できるようになった。	A

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価
1. 生涯学習関連施設の整備と機能の充実	①生涯学習関連施設の整備と機能の充実			
	星の郷ふれあいセンターの活用	市内外・老若男女を問わず、研修・部活動・少年団活動などで年間118団体・延べ10,714人の利用があった。(イベントへの来場者を除く。)	A	計画的な施設の維持管理はもとより、学校や天文台等との連携により、市内のみならず、市外からの利用者も増えている。
	アクティブライフ井原の備品の更新と活用	非常照明設備等修繕 907,200円 音響調整卓 997,056円	A	館内の非常照明設備等修繕の施設整備及び音響調整卓の更新等、計画的な施設の維持管理を行うことにより、利用者の安全確保に努めるとともに、利用者が快適な空間で利用できるように努めた。
	芳井生涯学習センターの施設整備と活用	子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の利用があり、利用者数も増加の傾向にある。一部空調の整備を行い、生涯学習の場、交流の場として更に利用しやすい施設を目指している。	A	計画的な施設の維持管理により、特に高齢者の安全・安心で、快適な施設環境を提供することができた。
	井原市ふれあいセンターの備品整備と活用 開館時間の見直し (10時開館を9時に変更)	ふれあい七夕まつりやふれあいセンターまつり、各講座などの主催事業に加え、人権教育講演会、子ども会等の行事、各種サークル活動でも活用されている。年3回のセンターだよりの発行により、活用の様子が広報されている。 また、職員の勤務体制の見直しにより、開館時間を午前10時から午前9時に変更することにより、利用者の利便性の向上に努めた。(延べ利用者数 5,853人←前年実績 5,666人)	A	計画的な施設の維持管理や開館時間の見直しを行ったことにより、主催事業、支援事業に加え、個人や地域の団体等にも利用されるなど、人々の交流の場となっていることはもとより、利用者の利便性の向上につながり、利用者も増加した。
	美星天文台・星空公園の整備と利用促進			
	美星天文台の活用による天文の普及・啓発 101cm望遠鏡の一般公開と各種イベントの実施	101cm望遠鏡一般公開等による入館者数は、昼間3,613人、夜間13,293人、合計16,906人で開館以降最高人数を記録。 イベントは、春の大型連休(入館者996人)、お月見会(326人)、秋の大型連休(1,531人)、ふたご座流星群を見る会(549人)など。 4月「月食を見る会」、7月「織り姫星・彦星を見る会」、8月「ベルセウス座流星群を見る会」は悪天候のため中止。 101cm望遠鏡占用利用は29夜の申請中、天候により21夜で実施。		天候不順の影響で大型イベントの多くが中止となったが、春・秋の大型連休は天候や曜日並びに恵まれ昼夜問わず来館者が増加した。また、新システムの導入に伴い、7月～3月の昼間の入館者数が前年度比で45%増加した。
	臨館内展示の充実と立体映像上映システムの整備	平成27年6月下旬に「星と宇宙の立体映像上映システム(4D2U)」と星空シアター(バージョンアップ版)を導入。 4D2Uの7～3月の9ヶ月間の上映 233回 延べ2,988人。星空シアターは夜間悪天候時に随時上映。		4D2Uシステム導入により、昼間に宇宙を学べる設備が充実し、昼間の入館者数の大幅増につながった。また星空シアターを夜間悪天候時のバックアップとして活用できた。
	市内小・中学校等体験学習の推進 出前観望会等による啓発	市内小学校10校の「ふるさと井原魅力発見事業」等による観望を受け入れ(5～9月)。 市外小学校6校の社会見学の受け入れ(5～10月)。 いきいきいばら出前講座による出前観望会を2回、市外への出前観望事業を1回実施。 高梁川流域連盟発行の「高梁川流域パスポート」利用の小学生を受け入れ。 天城高校天文部(2月26日)と金光学園天文部(3月12日)の観測研修を受入指導。 美星スペースガードセンター関係団体と協同で、高校生向け観測実習を実施(8月)。	A	学校教育課との連携事業(ふるさと井原魅力発見事業)への市内小学校の参加校が前年度の5校から10校に増加した。また、市外小学校の社会見学についても、前年度の5校から6校に増加するなど、学校等における活用も図られている。
	関係団体等との交流、情報交換	倉敷科学センターで開催された「くらしき宇宙セミナー」に講師協力した。 日本公開天文台協会岐阜大会や各種研究会に参加して情報交換を行った。 自治体と観光事業者等でH28年度に開催される大型観光キャンペーン「晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーン」のプレイベント(6月)に参加し、井原市美星町の星空をPRした。 宇宙ガールズミーティングに参加し、4D2Uの上映を行った。		地域の天文普及施設である倉敷科学センターとの協力により、「くらしき宇宙セミナー」関係者が、美星天文台に来館したり、星空公園での観望会を企画したりしている。また日本公開天文台協会の会合参加に伴う施設見学や情報交換は、美星天文台の展示更新を考える上で参考になった。 晴れの国おかやまDCプレイベントでのPRは、業者による美星の星空見学ツアーが企画されるきっかけになった。 宇宙ガールズミーティングにおける4D2U上映は、星好きの若い女性に美星天文台をアピールする良い機会となった。
	星空公園での各種イベントの実施と利用促進	星空公園公開観望会 8回 延べ108人 (H24～26平均 84人) 岡山大学の観測利用 16夜 延べ22人 (H24～26平均 88人) アマチュア等の観測利用 28夜 延べ121人 (H24～26平均 39人) 天文台主催行事 2回 延べ67人		継続的に無料の公開観望会を開催することにより、公開観望会参加者が参加者は以前の4年間の平均を上回るなど、利用促進が図られている。

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
	図書館の整備と機能の充実		A	3館をネットワークで結び予約等利用者の利便性が図られた。	A	
	図書館配本ネットワークの利用促進	公用車を利用し、より機動力のある配本ネットワークを確立することにより、利用者の利便性の向上を図った。火・金曜日→支所便を利用。水・土曜日→図書館公用車を利用。相互利用実績860冊				
	図書館蔵書の充実	蔵書数 井原（さくら号含む）186,881冊、芳井62,381冊、美星39,302冊 3館 合計 288,564冊				
	図書館書架の充実	芳井図書館書架5台、美星図書館書架1台を購入した。	A	蔵書数に見合った書架の増設ができた。	A	
	新刊図書及び図書館事業のPRと利用促進	市広報、ホームページ、図書館便り、各種ポスター・ちらし、お知らせくんによりPRと利用促進を図った。	A	PRと利用促進が図られた。	A	
2. 公民館の整備と機能の充実	①公民館の整備と機能の充実					
	公民館主事の配置による地域の特徴を生かした公民館活動の推進	週32時間勤務により、開かれた公民館活動を展開。	A	公民館が開いていると利用しやすい、と好評であり、主事を配置した効果は大きい。	A	
	笑って健康元気アップ事業の実施 地区公民館の企画による「笑いの講座」の開催	高屋公民館 11/ 8 参加者130名 出部公民館 2/14 参加者200名 西江原公民館 2/28 参加者180名	A	来場者の方から、好評の声を多くいただき、十分に目的を達成している。	A	
	パソコン講座等の支援 (貸出用パソコンの活用)	56件 延べ381台の貸出	A	定期的に貸出しされており、十分活用されている。	A	
	地区公民館の施設・設備の整備充実	公民館貸出用ノートパソコン(20台)を更新したほか、地区公民館のプレハブ物置、複写機、テレビ、ワイヤレスマイクシステム等の更新のほか、県主公民館の屋根の修繕、木之子公民館の資料室の柵板設置等を行った。	A	地区公民からの要望に基づき、備品や施設の修繕を行い、利用者の安全・安心の確保に努めるとともに、利便性の向上に努めた。	A	
	お知らせくんを活用した情報発信	各公民館から地区住民に対し、イベント等の情報発信を行った。	A	毎日放送している地区もあり、積極的に活用されている。	A	
	公民館ホームページ開設に向けての整備	西江原・井原・出部公民館は開設している。イベント等の情報発信に有効であるFacebookなどのSNSを検討している。	B	早期に開設できるように努めたい。	B	
3. 生涯学習関連情報の収集と提供の充実	①生涯学習ガイド等の充実					
	生涯学習ガイド「まなびすと」等の作成	公民館、生涯学習関連施設等へ400部作成し配付した。内容も、生涯学習情報だけでなく、文化・スポーツ等幅広い情報の掲載に努めた。	A	生涯学習や文化・スポーツ、また、各地区の公民館活動などを掲載することにより、幅広い情報提供をすることができた。	A	
	②メディア等を活用した情報提供の充実					
	市ホームページでの生涯学習カレンダーの活用	生涯学習課、健康医療課、子育て支援課、図書館情報の一元化策として、生涯学習カレンダーを運用している。	A	生涯学習課をはじめとした複数部署のイベント情報を一元化することにより、効率的でタイムリーな情報発信を行うことができた。	A	
	CATV、広報いばら、お知らせくん等の活用	広く市民に周知し参加してもらえよう、機会あるごとに、ホームページの更新、CATVの出演等を行い、市広報やお知らせくんを通じ、行事の紹介や広報活動を積極的に行った。	A	市広報やホームページはもとより、様々なメディアを通じた情報発信を行うことができた。	A	

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

IV 市民と行政の協働による生涯学習の推進

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価
1. 生涯学習基本計画に基づく施策の推進	①生涯学習基本構想・基本計画に基づく施策の推進			
	第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づく施策の推進	「生涯学習社会に対応する学習機会の提供・生涯学習環境の整備と充実・市民と行政の協働による生涯学習の推進・目標値の設定と計画の推進」を念頭に、家庭・地域・学校との連携を含め事業を実施している。	A	第2次生涯学習基本計画に基づき、様々な課題に対して、ライフステージに応じた学習機会の提供等を行うことができた。
	②社会教育委員会の機能の拡充強化			
	社会教育委員の研修等の充実	年3回（6月、12月、3月）委員会を開催した。また、岡山県及び備中地区社会教育委員連絡協議会の実施する研修会をはじめ中四国地区研究大会へも積極的に参加した。	A	報告会にならないよう事前に資料を送付し、出来るだけ意見をいただくよう努めた。3月の委員会においては、出部公民館、美星天文台（4D2U）、星空公園の視察及び地域活動の研修を行った。
2. 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援	①市民組織づくりと活動支援			
	アクティブライフ井原「まなびめいと」等の活動支援	事務局として「まなびめいと」のすべての事業に協力し、人的支援を行った。 ・いろは塾①ホテルを見る会、②ぶどう農家体験、③川遊び&化石探し、④高屋ウォーキング ・少年少女合唱団、ジュニア弦楽合奏団による夏休み体験 ・ジュニア絵画クラブ主催の夏休み企画事業「井原市の偉人平櫛田中の彫刻を描こう！」 ・ジュニア絵画クラブ主催の写生旅行「機関車を描きに行こう！」 ・少年少女合唱団によるきのこセイモンでの慰問コンサートや合唱フェスティバルなどの行事への参加活動 ・ジュニア弦楽合奏団によるムーンライトコンサート ・あたごっち大作戦、まなびフェスタへの出店 ・各種サークル等の活動支援、そのほか年間を通じて生涯学習情報誌の発行など。	A	事業の企画から実施まで、活動の支援は十分にできた。小学生を中心に写生旅行や夏休み企画事業などを主催することで、課外学習の機会を提供し、各種イベント等へも積極的に参加した。また、いろは塾による自然体験活動により子どもたちが自然に触れ親しむ機会を提供し、自然への理解や興味関心を深めた。子どもゆめ基金の助成を、受けたため例年より余裕をもった活動ができた。
3. 生涯学習推進担当の体制整備	①生涯学習推進担当の整備			
	計画的な社会教育主事の育成	社会教育主事講習を平成22年度に1名、24年度に1名、26年度に1名受講させ、社会教育主事有資格者の増に努めている。	A	計画的な育成に努めた。
4. 生涯学習リーダー等の養成	①人材活用の拡充			
	ボランティア活動の推進	井原市ふるさと人材バンクには、スポーツ部門36人、文化部門12人、生涯学習部門14人の計62人の登録があり、スポーツ部門では体験講座や指導者講座、文化部門では井原市史を読む会、歴史講座、ジュニア指導、また、生涯学習部門では、子どもを対象にした体験講座や教室、イベント等の場で指導をしていただいた。	B	生涯学習課を窓口としての利用がない。また、スポーツ部門ではスポーツ推進員制度も始まっている。今後も人材確保や利用率の促進に向けたPRを積極的に行うことはもとより、人材バンク制度の在り方について検討し、良い制度への改善を行っていきたい。 現在、備後圏域6市2町による地方中枢拠点都市連携事業として「びんご人材バンク」設立の動きがある。
5. 社会教育関係団体等の育成・支援	①成人団体や青少年団体の育成・支援			
	地区青少年を育てる会、連合少年団、女性協議会、PTA連合会の育成・支援	【補助金の交付】 井原市女性協議会 840千円 井原市PTA連合会 140千円 井原市連合少年団協議会 300千円 地区青少年を育てる会等 780千円（60千円×13地区） 井原市手をつなぐ親たちの会 130千円 友好親善都市交流事業費 1,050千円 井原警察署管内少年警察協働員連絡協議会 100千円 井原市人権教育協議会 75千円	A	活動促進のための有効な助成となった。
6. 出前講座の充実	①出前講座の拡充と充実			
	いきいきいばら出前講座の充実と利用促進	出前講座を実施（講座回数140回、受講者数3,489人） （26年度 講座回数 90回、受講者数2,415人）	A	講座回数・受講者数ともに昨年度に比べて増加しており、市民はもとより、行政職員の生涯学習に対する意識の向上が図られている。

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価	第 三 者 評 価
7. 民間団体等との協働による事業の推進	①民間団体等との協働による事業の推進			
	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業の実施			
	放課後子ども教室事業の実施 (芳井・美星小学校区)	放課後子ども教室事業 子どもたちに安心・安全な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、スポーツ・体験活動等を実施することによって、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行った。 (芳井) よしいいきいきキッズクラブ (美星) 星の郷ふれあいサロン	A	A
	学校支援地域本部事業の実施 (大江・野上・井原・西江原・県主・木之子・荏原・美星中・芳井小中)	学校支援地域本部事業 大江、野上、井原、西江原、県主、木之子、荏原の7小学校区及び美星中学校に加え、芳井小・中学校が新たに支援本部をおき、合計9本部(10小中学校)での活動となっている。各本部と地域コーディネーターが連携し、学習支援、環境整備、学校行事の支援、子どもの安全確保などのボランティア活動を円滑に実施することができた。	A	A
新 学習支援「地域未来塾」を開講 (芳井・美星中)	定期テスト前に基礎基本を確認したり、学力を定着させたりするために、学校と協力しながら実施できるようにした。また、3年生を対象に基礎学力の向上や入試対策としても実施した。			
まなびめいと(少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽合奏団)の活動支援	事務局として事務的な運営を支援した。少年少女合唱団は、合唱フェスティバル・まなびフェスタに出演、きのこセイモンで慰問コンサートを行った。また、ジュニア弦楽合奏団は、まなびフェスタに出演、ムーンライトコンサートを行った。さらに少年少女合唱団とジュニア弦楽合奏団とのジョイントでミニコンサート'16を行った。ジュニア絵画クラブは、夏の企画事業として「井原市の偉人平櫛田中の彫刻を描こう！」・秋の写生旅行として「機関車を描きに行こう！」を開催し、後者は井原市役所1階市民サロンで作品を展示した。また、講座の周知を兼ねて合唱・ジュニア弦楽では夏休みに「夏休み体験」を開催し、歌や楽器に触れてもらう機会を設けた。 まなびフェスタでは絵画クラブによる作品展示、合唱・弦楽による舞台発表を披露した。	A	A	
放課後子ども教室事業の実施 (芳井・美星小学校区)	放課後子ども教室事業 子どもたちに安心・安全な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、スポーツ・体験活動等を実施することによって、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行った。 (芳井) よしいいきいきキッズクラブ (美星) 星の郷ふれあいサロン	A	A	
学校支援地域本部事業の実施 (大江・野上・井原・西江原・県主・木之子・荏原・美星中・芳井小中)	学校支援地域本部事業 大江、野上、井原、西江原、県主、木之子、荏原の7小学校区及び美星中学校に加え、芳井小・中学校が新たに支援本部をおき、合計9本部(10小中学校)での活動となっている。各本部と地域コーディネーターが連携し、学習支援、環境整備、学校行事の支援、子どもの安全確保などのボランティア活動を円滑に実施することができた。	A	A	
新 学習支援「地域未来塾」を開講 (芳井・美星中)	定期テスト前に基礎基本を確認したり、学力を定着させたりするために、学校と協力しながら実施できるようにした。また、3年生を対象に基礎学力の向上や入試対策としても実施した。			
まなびめいと(少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽合奏団)の活動支援	事務局として事務的な運営を支援した。少年少女合唱団は、合唱フェスティバル・まなびフェスタに出演、きのこセイモンで慰問コンサートを行った。また、ジュニア弦楽合奏団は、まなびフェスタに出演、ムーンライトコンサートを行った。さらに少年少女合唱団とジュニア弦楽合奏団とのジョイントでミニコンサート'16を行った。ジュニア絵画クラブは、夏の企画事業として「井原市の偉人平櫛田中の彫刻を描こう！」・秋の写生旅行として「機関車を描きに行こう！」を開催し、後者は井原市役所1階市民サロンで作品を展示した。また、講座の周知を兼ねて合唱・ジュニア弦楽では夏休みに「夏休み体験」を開催し、歌や楽器に触れてもらう機会を設けた。 まなびフェスタでは絵画クラブによる作品展示、合唱・弦楽による舞台発表を披露した。	A	A	

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

V 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価
1. 生涯スポーツの振興	いばら生き生きクラブの自立支援 ソフトバレーボール ゴルフ 弓道 ソフトテニス テニス 陸上競技 卓球（新） 合気道 華道 茶道 陶芸 野球 新 バウンドテニス 新 バドミントン 大人の楽トレ （15サークル1教室）	いばら生き生きクラブ（14種目会員数491名） クラブ会報の発行（年3回）	A 総合型地域スポーツクラブへの財政的支援及び人的支援に努めた。会員数は減少傾向にある中で増加した。新種目の追加、会報の発行など、会員数の増加と親しみやすいクラブの実現に向けて取り組んだ。	A
	スポーツ推進委員によるスポーツ講習会等の実施	地域スポーツ教室等の開催（6回開催） スポーツ推進委員の資質や技術の向上のための研修会の実施（2回実施） 「市民スポーツの日」ニュースポーツ体験コーナーの企画立案、実施 市行事への協力（市民体育祭、全国健康マラソン）	B スポーツ推進委員の組織の強化を図るとともに、各自の資質と技術の向上に取り組んだ。地域へ出向きスポーツ教室を開催し、スポーツを気軽に取り組める場を提供したほか、市の行事への協力を行った。今後も組織の一層の強化を図るとともに積極的に地域へ出向くなどして市民への認知度を高め、活動の場を広げていく必要がある。	B
	ニュースポーツのPRと備品の貸出	グラウンド・ゴルフ（15件）、ユニホック（2件）、ディスクゴルフ（0件）、ペタンク（0件）、フライングディスク（1件）、チャレンジ・ザ・ゲーム（2件）、ソフトバレーボール（1件）、綱引き（5件）、ターゲット・バードゴルフ（1件）、ゲートボール（1件）、ティーボール（1件）、ディスコン（7件）、キンボール（3件）、長縄（3件）、玉入れ（19件）、カローリング（0件）インディアカ（1件）、ふらばーボールバレー（7件）、スポーツチャンバラ（3件）	A ホームページ等で備品のPRを積極的に行うとともに、ゲームのルール紹介を行うなど、ニュースポーツの普及、振興を図った。今後も積極的に周知を図る。	A
2. 競技スポーツの振興	スポーツ施設の活用 （各種スポーツ大会の開催） （井原体育館・芳井体育館）			
	バレーボール大会 卓球大会 バドミントン大会 空手道大会 柔道大会 剣道大会 合気道演武会 ソフトバレーボール大会 新体操大会 太極拳体験講習会	バレーボール大会（6大会872名参加）、卓球大会（2大会228名参加）、バドミントン大会（3大会919名参加）、空手道大会（1大会22名参加）、柔道大会（1大会214名参加）、剣道大会（1大会34名参加）、合気道演武会（1大会41名参加）、ソフトバレーボール大会（2大会126名参加）、井原カップ男子新体操競技大会（1大会167名参加）、井原新体操フェスティバル（1大会146名参加）、太極拳体験講習会（1大会113名参加） このほかにも、スポーツ少年団による招待試合及び大会等が開催された。	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は増加しており、活用は図られた。	A
	（陸上競技場・芳井運動場・美星運動場） 陸上選手権大会 サッカー大会 ソフトボール大会 少年ソフトボール大会 ゲートボール大会	陸上競技大会（1大会347名参加）、サッカー大会（1大会311名参加）、ソフトボール大会（1大会365名参加）、少年ソフトボール大会（1大会395名参加）、ゲートボール大会（2大会227名参加）	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は横ばいであり、さらなる周知を図る。	A
	（野球場） 野球大会	野球大会（4大会1,028名参加）	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は横ばいである。さらなる周知を図る。	A
	（庭球場） 庭球大会	庭球大会（5大会374名参加）	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は全体的には減少傾向にある中で微増しており、さらなる周知を図る。	A
	（弓道場） 弓道大会	弓道大会（2大会54名参加）	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は微減であり、さらなる周知を図る。	A
	（グラウンド・ゴルフ場） グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフ大会（4大会845名参加）	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は微減しており、さらなる周知により、高齢者のスポーツ活動拠点となるだけでなく、市民の健康づくりに資するよう努めた。	A

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価	第 三 者 評 価
	(ロード) 市民サイクリング大会 井原市駅伝競走大会 県高校駅伝競走大会(男女)	サイクリング大会(1大会18名参加)、駅伝競走大会(1大会384名参加)、県高等学校駅伝競走大会(1大会498名参加)	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は減少傾向にあり、さらなる周知を図るなど、参加者の増加を図る。	A
	(リフレッシュ公園野球場) 野球大会 ソフトボール大会 少年ソフトボール大会	軟式野球大会(4大会1,028名参加)、ソフトボール大会(1大会365名参加)、少年ソフトボール大会(1大会395名参加)	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。参加者は減少傾向の中で微増しており、さらなる周知を図るなど、参加者の増加を図る。	A
	指導者の育成 ソフトボール審判、バレーボール審判、軟式野球審判講習会の開催	ソフトボール審判講習会(41名参加)、バレーボール審判講習会(68名参加)、軟式野球審判講習会(52名参加)	A スポーツ振興に不可欠である指導者、審判員の養成に努めた。	A
	団体の育成支援 体育協会 各スポーツ協会 スポーツ少年団 高等学校 グループ等の活動支援、井原高校、井原ジュニア新体操クラブ、sparkle井原 R.Gの新体操選手育成強化支援	いばら生き生きクラブ(14種目会員数491名 補助金450千円)、井原市体育協会(48大会実施約14,000名参加 補助金2,394千円)、興譲館高校陸上競技部(補助金1,000千円)、井原高校新体操部(補助金1,700千円)、ジュニア新体操クラブ(補助金700千円)、sparkle井原 R.G(補助金500千円)	A 各種スポーツ団体への財政的支援及び人的支援に努めた。	A
	全市的行事としての取り組み 全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 星の郷ふれあい健康マラソン大会 井原カップ男子新体操競技大会 井原新体操フェスティバル 市民ゴルフ大会(臨) 井原市体育協会40周年記念事業バレーボールVプレミアリーグドリームマッチ	全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会(2,191名参加) 星の郷ふれあい健康マラソン大会(779名参加) 井原カップ男子新体操競技大会(167名参加) 井原新体操フェスティバル(1,000名参加) 市民ゴルフ大会(175名参加) 井原市体育協会40周年記念事業バレーボールVプレミアリーグドリームマッチ(1,200名参加)	A 市民スポーツの振興と健康づくりに努めるとともに「新体操のまち井原」「陸上競技のまち井原」の推進を図った。参加者の増加を図るため、より魅力ある大会としていく。	A
	スポーツ功績者・団体の表彰・顕彰 スポーツに功績をあげた個人・団体を表彰・顕彰	井原市スポーツ奨励賞授与(3名)、体育協会長表彰(功労者2名、優秀選手特別賞1名、優秀選手24名、優秀団体9団体)	A 優秀な選手及び功労者への激励・顕彰並びに市民への周知が図られた。	A
3. 健康づくり・体力づくり・仲間づくりとしてのスポーツの振興	第53回市民体育祭の開催	15種目、オープン2種目に1,500名の参加があった。	A スポーツ水準の向上と体育レクリエーション活動の振興に努めた。	A
	各種スポーツ教室の開催 (スポーツ人口の拡大) 弓道 庭球 卓球 バドミントン 新体操 水泳教室の開催	弓道教室(未実施)、庭球(テニス教室(未実施)、ソフトテニス教室(31名参加)、卓球教室(19名参加)、バドミントン教室(8名参加)、水泳教室(17教室1,363名参加)、新体操教室(女子)(19名参加)、新体操教室(男子)(4名参加)、海洋クラブ(15名参加)	B 主に初心者を対象としたスポーツ教室の開催により、底辺の拡大が図られた。種目によっては受講者が減少傾向にあり、さらなる周知を図る。	B
	グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業の開催	井原市GG大会(1大会 258名参加) 会員親睦GG大会(2大会 461名参加) 公民館三世代GG大会(1大会 126名参加)	A 市民がスポーツに接する機会をつくるために、参加を呼びかけた。さらなる周知を行い、高齢者のスポーツ活動拠点となるだけでなく、市民の健康づくりに資するよう努めた。	A
	井原・魚津スポーツ交流 しんきろうマラソンへの選手団派遣 シニア・ジュニア野球チーム交流事業	井原・魚津スポーツ交流事業(補助金760千円) しんきろうマラソン大会(団長、選手10名) 野球交流大会(シニア選手14名、ジュニア選手17名)	A 友好親善都市とのスポーツ交流を通して、より友好を深めるとともに、両市のスポーツの振興が図れた。	A
	「市民スポーツの日」事業の開催	毎年10月第2月曜日(体育の日)を「市民スポーツの日」と定め、市民が気軽にスポーツに親しむ場を提供するとともに、スポーツの意義等について啓発を図る。 ○イベントの実施 10月12日(月)に井原体育館、陸上競技場等を会場にしてスポーツ体験ブース、健康ブースを設け、自由に体験してもらい、スポーツの大切さや楽しさを知っていただくためのきっかけづくりのために行った。 ○スポーツ施設の無料開放 スポーツ課所管のスポーツ施設を1日無料開放し、市民が気軽にスポーツに親しむ場の提供を行った。 ○スポーツ啓発ウィーク 市民スポーツの日前1週間を啓発ウィークとし、ノボリの掲示や井原放送等により市民にスポーツの大切さや意義についての啓発を図った。	A スポーツ推進委員をはじめ多くの関係団体の協力を得て、体験ブースや健康ブースを設置して体験等をしてもらい、スポーツの大切さ等の啓発に努めた。 当日は、子供からお年寄りまでの幅広い世代の参加があり、スポーツに親しむ場を提供することができた。	A

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
4. 文化・スポーツ振興協会との連携強化	スポーツの普及振興に寄与する事業及び活動を行う個人・団体への助成事業	全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 助成額1,000,000円 晴れの国岡山駅伝競走大会選手派遣事業 助成額 168,251円	A	市民に、マラソン大会を通してレベルの高い選手に接する機会を提供することができた。 また、晴れの国岡山駅伝では、選手を派遣し、「陸上競技のまち井原」を県内外に発信することができた。	A	
	スポーツ競技に功績をあげた者への激励事業	激励金 全国高等学校総合体育大会陸上競技等 外62大会 238名 1団体 支給額 1,240,000円	A	スポーツ競技等で、全国大会・中国大会に出場する選手を対象に激励金を交付し、競技者の意欲向上に努めた。	A	

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

VI 地域文化を体感できる活力あるまちづくり（芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）

施策	内容	実施事業	自己評価		第三者評価	
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興 (1) 芸術文化活動の活性化	文化協会、各文化グループ等の育成・支援	市から文化協会に対して補助金747千円を交付、文化課において事務局支援を行うとともに、26年度まで文化協会に雇用していた事務員を市の雇用とした。文化協会は、会員数1,348人、25専門部と47文化教室で活動し、「文化協会だより」は年4回発行した。60周年事業で開催した「伝統文化体験教室・和の楽校」を、継続して主催事業に組み込み、実施した。	A	会員が減少傾向にあり、休部する専門部があったが、文化教室が増えたり、新規事業にも取り組み、活発な活動が展開された。補助金や人的な支援を継続することができた。	A	
	文化祭、文化教室での創作活動の推進	26年度に比較し、文化教室が2教室増加した。10月31日～11月1日の2日間、井原市文化祭を開催し、各専門部、各文化教室の1年間の活動の成果を展示、発表するとともに、市民ギャラリーを活用し、それぞれの専門部、文化教室ごとに展示会や発表会を行った。また、芳井・美星支部においては、3月に芸能発表会、文化発表会を開催した。	A	各専門部、教室を支援するとともに、文化祭等の作品、発表の機会も提供することができ、創作活動の充実を図ることができた。	A	
	スクールコンサートの開催	芳井生涯学習センターにおいて9月29日の午後1回公演で開催し、児童にもなじみの深い楽器を演奏する「鍵盤ハーモニカ＊チェキ＊TR10」の演奏を鑑賞した。鑑賞校は6校（高屋小・大江小・稲倉小・荏原小・井原小・芳井小）で総数510人の児童が参加した。文化・スポーツ振興協会とさくらライオンズクラブの助成金で運営した。	A	児童にとって身近な、鍵盤ハーモニカのすばらしい演奏を鑑賞することができ、楽器の魅力にふれるとともに、豊かな情操を養うことができ、児童の健全育成に資することができた。	A	
	井原市文学賞の開催	昨年度に続き、児童・生徒文芸大会を文学賞に統合して実施した。一般の部は、5部門（短歌・俳句・現代詩・川柳・随筆）で作品を募集し、79点の応募があり、児童・生徒の部では、3部門（短歌・俳句・川柳）で作品を募集し、5,739点の応募があった。運営費の一部に文化・スポーツ振興協会の助成金を受けて運営することができた。	A	一般の部の応募が、減少傾向にあるため広報に努めたが、応募点数は減少した。しかしながら、児童・生徒の部は、昨年度を上回る作品の応募があり、子どもたちに文芸作品の魅力伝える一助となった。	A	
	観月会の開催	市民会館・田中苑一帯で、9月26日に開催し、3流派（表千家・裏千家・上田宗箇流）の茶席と三曲の演奏を行なった。会場となった市民会館ホワイエが満員になるほど、市内外より多くの方が来場したほか、茶席券も792人分の売り上げがあり、盛況であった。	A	中秋の名月にかかわる日本の伝統行事を行うことによって地域文化の向上を図るとともに、市内の邦楽や茶道の愛好家の方々が日ごろの活動の成果を発表する場となった。	A	
	臨 岡山県美術展覧会井原会場の開催	市民会館、市民ギャラリーを会場に10月8日から12日までの5日間開催した。日本画、洋画、工芸、写真、書道、彫刻、デザインの7部門の入賞作品等322点が展示され、市内外より1,189人の入場があった。	A	会場では、井笠地域の入賞作品を中心に展示され、多くの入場者を迎えることができ、優秀な作品を鑑賞する機会が提供できた。	A	
	臨 宝くじ文化公演会の開催	アクティブライフ井原で1月9日、宝くじ文化公演「宮川彬良&アンサンブル・ベガコンサート」を開催した。市内外から問い合わせも多く、入場チケットは完売した。入場者数377人	A	作曲家で演奏家の宮川彬良氏によるわかりやすいクラシック楽曲の紹介と、9人編成にもかかわらずオーケストラのような迫力ある演奏で、ほぼ満員の入場者が魅了された。	A	
	田中美術館企画展・特別展の開催	平成27年度は、特別展を2回、企画展・所蔵品展を5回開催した。 ○春季所蔵名品展（4月1日～4月19日） 入館者数 559人 ○春季特別展「平家物語を描く」（4月27日～5月31日） 入館者数 3,650人 ○夏季所蔵名品展（6月5日～7月26日） 入館者数 784人 ○受贈記念「浜田泰三コレクション展」（7月31日～9月25日） 入館者数 1,510人 ○第27回平櫛田中賞受賞記念「黒蕨 壮展」（10月2日～11月29日） 入館者数 3,911人 ○冬季所蔵名品（12月5日～2月14日） 入館者数 936人 ○再興院展100回記念「戦後院展の日本画」（2月19日～3月31日） 入館者数 1,391人 ◎平成27年度総入館者数 12,741人	B	特別展では、直接市内事業所を回り、ポスター等を配布してPRに努めたほか、企画展でも、ポスター、チラシ等を作成してPRした。2年ぶりに入館者数が1万人を超えたが、特別展を2回開催している直近の25年（26,463人）、23年（22,787人）には及ばなかった。	A	入館者の増減は、企画の良し悪しによって決まるものであり、入館者の増減のみをもって評価するものではない。予定どおり実施できている。
	田中美術館友の会の支援	田中美術館職員で友の会の事務局支援を担当し、会が行う各種事業（会報発行、美術講座、美術鑑賞旅行、子供教室等）の開催するとともに、友の会会員に対し、所蔵品展の無料入館と、春秋冬の特別展での2名無料入館の優待を実施し、会員を対象に優れた美術にふれる機会を提供した。会員からは、美術館特別展の開催に当たり、ポスター・チラシの発送作業や開会式手伝い、作品監視のボランティア活動をいただいている。27年度末の会員数は、166人であった。	B	会員に展覧会入館料の優待を行うことにより、豊かな情操を養う機会が提供でき、美術鑑賞旅行の実施により、会員相互の教養・親睦を深めることができた。会員数は横ばい状態であり、法人、団体等を対象とする特別会員には入会がなかった。	B	
	市民ギャラリーの利用促進	文化協会・文化教室等延べ16団体が作品展示等に使用したほか、一般の使用も3件あった。	B	身近な作品発表の場として利用されているが、利用者数は横ばいの状況である。施設の老朽化が進んでいるが、利用者には不便をかけることのないよう、適時適切な営繕を実施した。	B	
市民茶室の利用促進	月釜及び「生き生きクラブ」による茶道教室が定例で50件使用しているほか、観月会・文化祭でも使用した。その他の茶道を楽しむグループの利用が1件あったが、前年度よりも減少した。	B	観月会、文化祭、月釜など茶の湯を楽しむ機会を提供することで利用促進が図ってきたが、利用者が固定化している。	A	施設の特性上利用者の固定は避けられない。	

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
(2) 芸術・文化を通じた多様な交流の推進	市民芸能祭	4月12日(毎年4月の第2日曜日に開催)に25団体、延べ230人の出演により開催した。入場者数は750人であった。	A	市民会館開館を記念し、昭和46年より始まった市民出演の芸能祭で、市民の芸能の発表の場として市民の間に定着している。	A	
	市民大学講座	講師に舞の海氏(5/31)、渡辺えり氏(7/26)を迎え、講演会を開催した。受講者数は、両講座合計で1,593人と盛会であった。	A	昭和56年より市民夏季大学としては始まり、文化や教養を高める講座として人気を博している。 (H26受講者数：1,521人)	A	
	市民会館自主事業	6月28日にNHK岡山放送局との共催で「おかあさんといっしょ宅配便 ポコポット小劇場」を開催し、入場者数は1,441人であった。また、11月22日にはズーラシアン「音楽の絵本」コンサートを開催し、409人の入場者があった。	A	親子参加型のイベントであり、多くの親子が参加し、楽しく交流することができた。	A	
	井原市史・芳井町史・美星町史等の活用	井原市史 9冊、芳井町史 2冊、文化財等図書 132冊を販売した。「井原の方言集」は完売したが、市史は依然として多くの在庫を抱えている。	B	文化財センター講座等の開催時に広報、販売に努めたほか、大学等研究機関にもダイレクトメールでPRしたが、大幅な在庫減少には至らなかった。	B	
	臨 雪舟サミットへの参加 (島根県益田市)	島根県益田市で開催された「第15回雪舟サミットinますだ」に参加。サミット自治体リレートークに出席し、市民との協働による雪舟を活かしたまちづくりについて話し合った。	A	本市と雪舟の関わりをはじめ、デニムや特産品、天文台等、井原市をPRすることができた。	A	
(3) 文化施設の整備と特色づくり	田中美術館所蔵作品の修復	平櫛田中作木彫彩色「良寛上人像」、田中苑ブロンズ「岡倉天心像」、を修復した。事業費1,512,000円	A	良寛上人像はカビ、汚れを洗浄して除去、岡倉天心像は全体を洗浄し、下地に漆を塗布したうえ金箔で箔押しして作品の価値を高めることができた。	A	
2. 文化財の保存と活用 (1) 文化財・歴史的資源の保存・活用	文化財保護審議会の開催 (指定文化財の検討)	7月14日、3月25日の2回開催し、美星町高澤寺が所蔵する「涅槃図」、「不動明王」等の文化財指定について協議したほか、市指定文化財の修復補助、現状変更等について協議するとともに、28年度事業で記録映像を収録する伝統芸能について情報収集した。	A	県及び民間の開発事業にかかる文化財の現状変更の現場を視察し、文化財の保護及び保存について議論を深めることができた。新しく指定する文化財はなかった。	A	
	文化財センターの活用	民間の開発事業に係る立会調査を実施し、埋蔵文化財の保存に努めた。整理すべき文化財は発見されなかった。	A	開発事業の立会調査を実施することにより、埋蔵文化財の保存・活用に係る普及・啓発を図ることができた。	A	
	埋蔵文化財の整理事業					
	体験講座・考古学講座・文化財めぐりの開催	文化財センター開館10周年記念事業として「山陽道」をテーマにした講座を3回開催したほか、染め物体験や勾玉づくりなどセンター講座を7回実施した。延べ311人が参加した。	A	井原市内の山陽道や文化財について、学習の機会を提供できた。参加人数は昨年度を上回った。(H26：239人)	A	
	文化財センター企画展の開催	平成27年度は企画展を4回開催した。 ○春季企画展「50年の歩みー井原市立高等学校」(4月29日～5月31日) 入場者数 512人 ○夏季企画展「吉備と塩づくり」(7月25日～8月30日) 入場者数 443人 ○秋季企画展「文化財センター開館10周年記念 井原を通過した近世山陽道」(10月17日～11月23日) 入場者数 823人 ○冬季企画展「北条早雲と法泉寺の文化財」(1月23日～2月28日) 入場者数 627人 ◎文化財センター企画展入場者数合計 2,405人	A	普段見ることができない近隣の遺跡や郷土の資料を紹介することができた。特に秋季企画展では、近世山陽道に対する関心が高く、800人を超える入場者があり、年間の入場者数も前年度実績を大幅に上回った。(H26：1,864人)	A	
	歴史講座の開催	3月11日、18日の2回、テーマを「武士の装い」とし、アクティブライフ井原で開催した。参加者計：176人。	A	武士が身につける、甲冑や刀剣、武具等についてわかりやすく解説した。	A	
	歴史人物紹介事業の実施	歴史人物や市内の文化財をインターネットで公開するシステムの保守を委託契約により毎月実施した。	A	公開システムをメンテナンスすることにより、インターネット上に広く情報を発信できた。	A	
	出前講座の推進	市民団体等の申し出により、随時出前講座を実施した。実施回数 31回(H26：27回) 参加者 延べ959人(H26：998人)。	A	市民団体他からの要望により積極的に出前講座を実施し、講座参加者がほぼ前年度並みにあり、教養・文化の向上が図れた。	A	
	歴史民俗資料館の活用	郷土の偉人を中心に常設展を開催。入館者数は、630人であった。(特別展、企画展での入館者を除く)	A	常設展での入館者が昨年度より増加。市内の偉人、歴史について理解が図れた。(H26：490人)	A	
	歴史民俗資料館特別展・企画展の開催	平成27年度は、企画展1回、特別展1回を開催した。 ○春季企画展「収蔵品展 一三十六歌仙絵扇額を中心にー」(4月25日～5月31日) 入館者数 349人 ○特別展「郷土の画家 片岡銀蔵展」(10月24日～12月6日) 入館者数 909人 ◎来館者合計 1,258人	A	特別展・企画展を各1回実施したが、身近な郷土作家を取り上げた特別展では、昨年の3倍近い入館者があり、関心の高さをうかがうことができた。(H26：531人)	A	
	星の郷民具伝承館の活用	地域に残された民具を収蔵、展示。平成27年度の入館者数は、他のイベントとの連携ができず、入場者数は69人とどまった。	B	職員が常駐していないため利用者の増加がなかなか図れていない。今後も引き続き他のイベントとの連携による施設の活用を図りたい。	B	
桜溪漢学塾公園の管理・活用	桜溪塾公園の清掃管理を行うとともに、建物の管理を地元へ委託した。	B	管理はできているが、十分活用できているとは言えない。	A	十分に管理できている。	

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
	名勝鬼ヶ嶽保存管理計画の運用による景観保全	県文化財保護指導員を含め、名勝鬼ヶ嶽保存管理計画に基づき、鬼ヶ嶽温泉開発事業を中心とした監視の強化に努め、景観保全を行った。なお鬼ヶ嶽温泉再開発事業については、開発者の経済的事情により中断したままであった。	C	名勝鬼ヶ嶽の景観保全を図ることができるよう、監視に努めた。	D	一定の成果が上がっている状況とはいえない。
	文化財保護・保存及び助成事業	市指定天然記念物「種八幡神社の大スギ」枝打払い事業に補助対象事業費の1/2を助成した。(対象事業費 479,520円 補助金額 239,000円)	A	大スギの枯れ枝を打払うことにより、種八幡神社の参拝者の安全を確保するとともに、市指定の天然記念物の維持に資することができた。	A	
	臨 「まんが井原昔ばなし」の制作	市内に伝わる昔ばなし6編を各5分のアニメーションにして30分に編集し、収録したDVDを100部制作した。市内幼小中学校、保育園、公民館、図書館等に配布した。	A	学校での上映や、図書館、公民館での貸し出し視聴により、郷土愛の醸成を図ることができた。	A	
(2) 伝統芸能や祭りの保存・活用	伝統芸能の保存・継承 渡り拍子保存会など	三原渡り拍子保存会及び種祭り愛好会の2団体へ活動費の補助を実施(補助金額合計45,000円)したほか、備中神楽(出部)、長発太鼓(井原)、新九郎太鼓(荏原)の3団体が国の助成を受け、伝承者育成の教室を開講した。	A	活動の補助を行うことにより、地域に伝承される伝統文化の保存・継承が図られた。	A	
3. 文化・スポーツ振興協会との連携	各種文化事業への助成	井原市文学賞へ500,000円、スクールコンサートへ369,514円、宝くじ文化公演会へ11,390円を助成。	A	市民の創作活動の援助や豊かな情操を養う機会の提供、優秀な芸術鑑賞の機会を設けることができた。	A	
	文化功績者への激励事業	「第39回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会」等6大会で、9人に激励金を交付した。	A	地域文化の向上が図られた。	A	
	スクールコンサートの開催(再掲)	芳井生涯学習センターにおいて9月29日の午後1回公演で開催し、児童にもなじみの深い楽器を演奏する「鍵盤ハーモニカ*チェキ*TRIO」の演奏を鑑賞した。鑑賞校は6校(高屋小・大江小・稲倉小・荏原小・井原小・芳井小)で総数510人の児童が参加した。文化・スポーツ振興協会とさくらライオンズクラブの助成金で運営した。	A	児童にとって身近な、鍵盤ハーモニカのすばらしい演奏を鑑賞することができ、楽器の魅力にふれるとともに、豊かな情操を養うことができ、児童の健全育成に資することができた。	A	
	井原市文学賞の開催(再掲)	昨年度に続き、児童・生徒文芸大会を文学賞に統合して実施した。一般の部は、5部門(短歌・俳句・現代詩・川柳・随筆)で作品を募集し、79点の応募があり、児童・生徒の部では、3部門(短歌・俳句・川柳)で作品を募集し、5,739点の応募があった。運営費の一部に文化・スポーツ振興協会の助成金を受けて運営することができた。	A	一般の部の応募が、減少傾向にあるため広報に努めたが、応募点数は減少した。しかしながら、児童・生徒の部は、昨年度を上回る作品の応募があり、子どもたちに文芸作品の魅力を伝える一助となった。	A	
	臨 宝くじ文化公演会の開催(再掲)	アクティブライフ井原で1月9日、宝くじ文化公演「宮川彬良&アンサンブル・ベガコンサート」を開催した。市内外から問い合わせも多く、入場チケットは完売した。入場者数377人	A	作曲家で演奏家の宮川彬良氏によるわかりやすいクラシック楽曲の紹介と、9人編成にもかかわらずオーケストラのような迫力ある演奏で、ほぼ満員の入場者が魅了された。	A	

平成27年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

VII 生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり（時代に対応した教育施設・機能の整備・充実）

施策	内容	実施事業	自己評価	第三者評価		
1. 学校（園）施設・設備の整備	○市立高校					
	市立高校旧校舎解体、処分及び一般廃棄物収集運搬業務等委託	旧校舎建物解体撤去工事及び処分（駐車場、渡り廊下、外構部分含む） 旧校舎廃棄物処理（生徒用机、椅子、テレビ、冷蔵庫等）	18,630,000円 248,400円	A	計画どおり事業を推進することができた。	A
	○空調設備設置工事					
	小学校 8校 （H28設置予定の設備設計等） 中学校 4校 （空調設備機器の設置工事等）	空調設備整備工事実施設計業務 （小学校8校：高屋、大江、稲倉、県主、木之子、荏原、西江原、青野） 空調設備整備工事 （中学校4校：高屋、木之子、芳井、美星）	3,240,000円 125,665,452円	A	計画どおり事業を推進することができた。	A
	○校舎建替事業					
	小学校 1校 （青野小学校管理棟 1棟） 中学校 1校 （井原中学校校舎 5棟）	青野小学校管理棟 空調設備施設設置工事、仮設校舎設置工事、既設管理棟解体工事 井原中学校校舎 敷地測量業務委託、地質調査業務委託等 ※基本設計委託料 37,908,000円は平成28年度へ繰り越し	23,914,440円 13,677,120円	A	計画どおり事業を推進することができた。	A
	○吊天井撤去工事					
	小学校 1校 （美星小学校体育館） 中学校 1校 （芳井中学校武道場）	吊天井撤去工事 美星小学校体育館 芳井中学校武道場 ※平成25年8月 文部科学省より、吊天井を撤去する方針が示されたことから撤去した。	11,502,000円 7,074,000円	A	計画どおり事業を推進することができた。	A
	○教育ネットワーク構築事業					
	教育委員会 小学校 13校 中学校 5校	教育ネットワーク構築事業 小学校教育ネットワーク構築業務 中学校教育ネットワーク構築業務 ※構築以前は、井原放送のインターネットにより、インターネットの閲覧やメールの送受信を行っていたが、セキュリティが確保されていなかったが、教育ネットワークの構築により、個人情報の保護や学校間、学校と教育委員会間の電子媒体での情報の伝達・共有化が可能となった。	19,720,800円 7,603,200円	A	計画どおり事業を推進することができた。	A
	○営繕工事					
	小学校（9件） （体育館改修工事等）	16,783,200円 音楽室床改修工事（高屋）、ろ過ポンプ更新工事（稲倉）、 渡り廊下・体育館プレス塗装工事（県主）、体育館改修工事（木之子）、 プールサイド塗装修繕工事（西江原）、教室水道改修・体育館倉庫扉改修工事（井原）、 インターホン改修工事（出部）、体育館屋根防水工事（川相）、 校舎屋根防水工事（芳井）、特別教室棟トイレ給水管更新工事（美星）		A	計画どおり事業を推進することができた。	A
	中学校（5件） （体育館・校舎屋根防水工事等）	47,034,000円 屋根防水工事（芳井）、トイレ洋式化工事（美星）、体育館改修工事（井原）、 校舎外部修繕工事（高屋）				
	幼稚園（1件） （園舎廊下補修工事）	1,018,440円 廊下床改修工事（芳井）、3歳児保育開始に伴うトイレ改修工事（稲倉）				
給食センター（2件） （床修繕工事等）	2,197,800円 床修繕工事（井原）、排水枳漏水改修工事（美星調理場）					
○校具、教具備品						
小学校	26,831,824円 管理備品（パソコン、印刷機、電子複写機、移動式放送設備、業務用冷蔵庫、空調機等） 振興備品（児童及び教員研修用図書、楽器、プロジェクター、教材提示装置、 特別支援学級教材、逆上がり補助板、教育用パソコンソフト等）		A	計画どおり事業を推進することができた。	A	
中学校	16,397,217円 管理備品（電子複写機、パソコン、印刷機、ワンタッチテント、音楽室机・椅子等） 振興備品（生徒及び教員研修用図書、楽器、マット、プロジェクター、電気分解装置、 卓球台等部活動教材、特別支援学級教材、教育用パソコンソフト等）					
幼稚園	3,944,423円 備品（教員研修用図書、パソコン、複合遊具、電子複写機、移動式放送設備等）					
給食センター	3,593,353円 スチームコンベクションオープン、縦型冷凍庫、ステンレス角形二重食缶、縦型冷蔵庫、 検食用冷凍庫等					

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価	第 三 者 評 価	
2. 社会教育施設・設備の整備	○公民館				
	備品の整備 (複写機、貸出用パソコン等)	5,295,397円 公民館貸出用パソコン 20台更新(中央公民館) 2,397,600円 デジタル複合機 2台(稲倉、大江)、空調機(美星)、 ガスオーブンレンジ・ガス給湯器(井原)、物置(西江原公民館) フォールディングテーブル 25台・スタッキングチェア 60台(高屋)、 会議用テーブル 10台(木之子) 等	A	公民館活動を行う上で必要な備品の更新に努め、利用者の利便性の向上に努めた。	A
	公民館の修繕等	817,200円 屋根修繕(県主公民館) 450,000円 資料室棚板設置(木之子公民館) 367,200円	A	各公民館からの要望に基づき、利用者の安全・安心の確保、利便性の向上等、優先順位をつけて実施した。	A
	○青少年育成センター				
	備品の整備(テレビ)	事務室テレビ更新(32型) 39,960円	A	事務室のテレビを更新により、執務環境の整備を図った。	A
	○ふれあいセンター				
	備品の整備(人権啓発教材等)	人権啓発DVD(3枚) 198,000円 「ココロ屋」・「ヒーロー」・「秋桜の咲く日」 パソコン用プリンターの更新 33,912円	A	人権啓発教材の計画的整備により、学校や公民館等での活用が図られるとともに、プリンターの更新により執務環境の整備を図った。	A
	○アクティブライフ井原				
	備品の整備(視聴覚ライブラリー用DVD含む。)	音響調整卓 997,056円 視聴覚ライブラリー用DVD(6枚) 297,864円	A	舞台設備及び視聴覚ライブラリーの充実を図ることができた。	A
	非常用照明設備等修繕	非常用照明設備等修繕 907,200円	A	非常用照明設備等修繕実施により、非常時の安全体制の確保ができた。	A
	○芳井生涯学習センター				
	空調設備改修工事	空調整備改修 9,720,000円 第3・第4研修室(廊下を含む。)・工芸室・視聴覚室・展示ホール・調光室	A	エアコンの取替整備等を実施し、利用者の利便性の向上や快適な環境整備に努めるとともに、より質の高い舞台芸術の提供のために、必要な備品を更新した。	A
	備品の整備(パワーアンプ)	調光室パワーアンプ更新 129,600円			
	○星の郷ふれあいセンター				
	施設・設備等修繕	排水設備等修繕工事 400,000円 トイレバルブ取替、体育館ガラス取替、調理室出入口戸修繕等 80,400円	A	玄関周りの排水設備の改修のほか、緊急的に発生した修繕等を行い、利用者の利便性の向上に努めた。	A
	○青少年研修センター				
	施設・設備等修繕	自動火災報知設備設置工事 760,320円 エアコン修繕 27,000円	A	消防法に基づく自動火災報知設備の設置工事のほか、緊急的に発生したエアコン修繕を行い、利用者の安全・安心の確保や利便性の向上に努めた。	A
	○美星天文台				
	備品の整備 (立体映像上映システム4D2U)	星と宇宙の立体映像上映システム/4D2U(一式) 4,546,800円 星空シアターバージョンアップ(一式) 216,000円 観測用デジタルカメラ(1台) 237,600円 天文書籍(1冊) 41,315円	A	来館者は、天候や時間に影響されることなく、宇宙の姿や星空をインパクトのある立体映像や高精細のシミュレーション画像で鑑賞できるようになった。今後はさらに、学校教育のみならず、社会教育等、幅広い活用が見込まれる。また、高感度のデジタルカメラは101cm望遠鏡の高い集光力と組み合わせて美星天文台ならではの天体画像コレクションの充実に貢献する。	A
	○文化財センター				
備品の整備	デジタル複合機(複写機:1台) 253,800円 事務室エアコン更新 297,000円	A	複写機及びエアコンを更新し、良好な執務環境を整備することができた。	A	
○田中美術館等					
営繕工事等(田中美術館)	田中美術館本館・別館漏水修繕 432,000円 エレベーター主ロープ取替修繕 213,000円	A	美術館の施設や設備の延命化を図るとともに、入館者の安全を確保することができた。	A	
備品の整備(田中美術館)	デジタル複合機(複写機:1台) 219,240円 事務用パソコン(1台) 111,240円 デジタルカメラ(1台) 52,000円 除湿乾燥機(4台) 604,800円 田中賞受賞作家作品(黒藤 壮作「肉食女子」「草食男子」) 1,000,000円	A	計画どおり整備することができ、展示環境の向上、収蔵品の充実、執務環境の向上を図ることができた。	A	

施 策	内 容	実 施 事 業	自 己 評 価		第 三 者 評 価	
	○運動公園等					
	トイレ改修工事 (与一記念弓道場)	和式の洋式化 648,000円	A	施設のグレードを保つとともに、市民にとって利用しやすい施設となるよう改修工事を施工した。	A	
	公共下水道接続工事 (芳井体育館)	下水道接続工事 1,171,800円				
	観覧席改修工事 (美星運動場)	観覧席改修工事 972,000円				
	備品の整備 (公用車、卓球台、スポットクーラー)	軽貨物トラック [電気自動車] (1台) 卓球台 (3台) スポットクーラー (3台) 1,708,000円 487,620円 243,000円				
	○海洋センター					
	美星海洋センター施設改修工事	コースロープ (1本) 64,908円				
	○図書館					
	備品の整備 (書架、図書、DVD、CD、ブラインド、ファックス)	17,852,474円 芳井図書館書架 5台、美星図書館書架 1台、ブラインド 13本、ファックス 1台、 図書 10,379冊、DVD 35枚、CD 25枚、録音図書 14本	A	蔵書の充実に努めるとともに、蔵書数に見合った書架を増設し備品を整備した。	A	
	電話設備の更新	井原図書館 電話機更新 302,400円	A	環境の整備に努めた。	A	